

月刊もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

２０２１年5月1日　第１０４号　第二版　　www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ:
迷う事のない迷路を通って
あなただけの番地に届きます

安部　（略）だいたい学校が文化系じゃなかったでしょう。だから文学青年的コースをぜんぜん抜きにして来ちゃったな。それが生きることみたいに、とつぜん書きだしてしまって……ある意味では過大評価だったかもしれない……むしろ［文学とは］数学の解答を出すとか、何か新しい発明をするとか、そんなようなものだったな。

（『文学者とは　［出席者］安部公房・大江健三郎・三島由紀夫』全集第９巻、２６２ページ上段）（傍線編集部）



歌舞伎のTOPOLOGY（位相幾何学）

もぐら通信

目次

０　目次…page ２
１　記録＆ニュース＆掲示板…page ３
２　荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む（１９）：解体現象学：岩田英哉…page１１
３　『周辺飛行』論（ １７）：箱男 予告編そのII —周辺飛行１４：岩田英哉…page１６
４　全自動ベビーカーのデッドヒート：第一回　ぼくらはスーパーマーケットを襲撃する：木石岳…page２２
５　私の本棚：
（１）西村幸祐著『韓国のトリセツ』を読む：岩田英哉…page２７
（２）秋川久紫新詩集『フラグメント　奇貨から群夢まで』を読む：岩田英哉…page２９
６　安部公房スタジオ・第５回スタジオ公演（二月一七日〜二六日）ダム・ウェイター：作/ハロルド・ピンター、訳・演出/安部公房：『アサヒグラフ』昭和５３年３月１０日号…page３３
７　リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（４７）：第２部 XXII：”おお、運命にもかかわらず、あちこちの公園の中に泡だって溢れている、”：岩田英哉…page ４０
８　Mole Hole Letter（２１）：二階層戦争論〜時代と世界のための処方箋〜：岩田英哉…page ４６
９　編集後記…page ６６
１０　次号予告…page ６６

・連載物・単発物次回以降予定一覧…page ６４
・本誌の主な献呈送付先…page ６７
・本誌の収蔵機関…page ６７
・編集方針…page ６７

MADE IN JAPAN

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

ニュース＆記録＆掲示板

The best tweets 10 of the month



へび@unagihebi Jun 16
この場合の「よい」は安部公房が芦ノ湖畔の道端で見た看板に書いてあったという「話し合う 家庭に育つ よい心」の「よい」と同じ



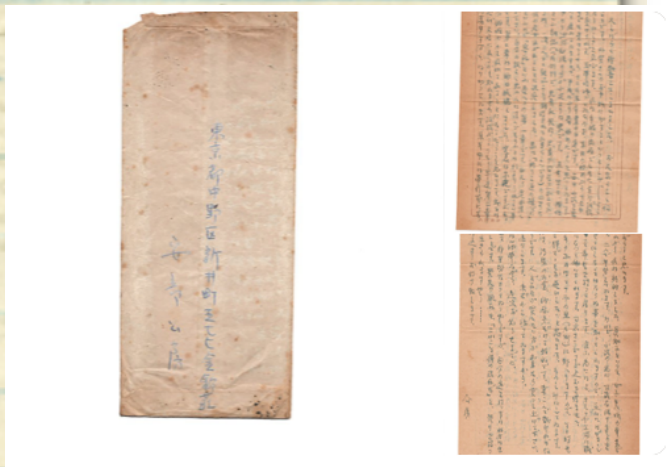
Anne@sakuanbow Jun 8
死んでる作家読まないと…三島と谷崎は好きだったですけど あと乱歩とか安部公房とか？なお彼らにしろ全然網羅してないので私はゴミ

The worst tweet of the month

シリウスA@eeyy888777 Jun 8
安部公房は今読まれてるんだろうか

今月の安部公房書簡新発見

うすぽてち@usupoteti 3 hours ago
昭和２２年６月２８日②
日付は祖父が封筒に書き入れたもので②は安部公房から来た手紙に振ってあった番号だと推測してます



うすぽてち@usupoteti 3 hours ago
何年もやらないといけないと思っていたけど面倒で放置していた安部公房の書簡をスキャンしました（たった３通しか無いのにな！）ついでに凄く面倒な事になりそうだけど僕が秘蔵していても仕方ないので公開します。安部公房ファンの方の目に留まればいいね。

ナオダ 【文学好き連合】@読書垢 Retweeted うすぽてち
素晴らしい資料が出て来ました(^-^)
安部公房が「無名詩集」を出した内容に触れてあります。

自費出版は、まあ、売れないのは当然だけど、戦後の貧しいとき（まだ紙は貴重だった）に、借金しまくって出していたとは！

これぐらいの根性はやっぱり必要ですね(^-^)



ホッタタカシ@t_hotta 2 hours ago
これはまた貴重な資料が出てきたな。安部公房が『終りし道の標べに』を発表する前後の書簡は、全集でも中埜肇、高谷治、中田耕治、埴谷雄高のものが収録されているだけだ。最初の手紙で安部真知との結婚を報告しているのも興味深い。>RT

すぽてち@usupoteti 3 hours ago
僕が秘蔵していた安部公房の書簡はこれだけです。ネットの海に放流したので、もう火事や何やらで失われる恐れがないので安心です。

今月の怠惰なる安部公房フリーク
ツツイ@kimihusaT 4 hours ago
大学図書館にある安部公房の研究書を、「借りる→延長」を繰り返して私物化していたが、予約が入ったらしく延長できない…。
安部公房読む人がいて嬉しいけど返すの面倒くさい。笑



今月の公然の秘密
高菜loves2x3x17
安部公房「公然の秘密」

［編集部］
アマゾンの商品説明を引用します：「内容紹介
石油危機、ロッキード事件、日航機ハイジャック――。混乱と狂騒のなか生まれた17の名作。筒井康隆「五郎八航空」、柴田錬三郎「長崎奉行始末」、円地文子「花の下もと」、安部公房「公然の秘密」、三浦哲郎「おおるり」、富岡多恵子「動物の葬禮」、藤沢周平「小さな橋で」、田中小実昌「ポロポロ」、神吉拓郎「二ノ橋 柳亭」、井上ひさし「唐来参和」、色川武大「善人ハム」、阿刀田高「干魚と漏電」、遠藤周作「夫婦の一日」、黒井千次「石の話」、李恢成「哭」、向田邦子「鮒」、竹西寛子「蘭」」
https://www.amazon.co.jp/日本文学100年の名作第7巻1974-1983-公然の秘密-新潮文庫-池内-紀/dp/410127438X/ref=sr_1_1?__mk_ja_JP=カタカナ&keywords=公然の秘密+池内&qid=1560798932&s=gateway&sr=8-1

尚彦@『ホームズ連盟の冒険』（祥伝社文庫）発売中@naohikoKITAHARA 5 hours ago
本が届いた。今日はいい日だ。喜国雅彦さんから新刊『今宵は誰と　小説の中の女たち』（双葉社）御恵贈頂きました。詩集からエンタメまで、文学作品の女性達が夢の中に登場する。安部公房、江戸川乱歩、夢野久作、キング、アイリッシュ……。取り上げられてて読んでない作品、読みたくなるなあ。



［編集部］商品説明からの引用：「安部公房の『砂の女』、太宰治の『女生徒』、ツルゲーネフの『はつ恋』、S・キングの『ミザリー』など――名作に登場する個性的で魅力的な女性たちが、もし自分の夢に登場したら……独自の視点でブンガクのおもしろさを描く、全く新しい文芸漫画。」
https://www.amazon.co.jp/今宵は誰と―小説の中の女たち―-喜国-雅彦/dp/4575314625/ref=sr_1_1?__mk_ja_JP=カタカナ&keywords=今宵は誰と&qid=1560799230&s=gateway&sr=8-1

今月の安部公房の署名

左右@_lr___ Jun 16
安部公房のサインを初めて見たのですが、なんだこれ、惚れ直すだろ



今月の箱男

m.ripple@m_ripple Jun 16
安部公房 箱男的な似顔絵マシーンにて。



こーたろー@DeepDaylight Jun 10
そろそろまた安部公房を読み返そうかしら



ツツイ@kimihusaT Jun 8
タワレコに置いてあった。
友人が引くほどの速さで手にとって確認したが、安部公房にはなんら関係のない本だった。



今月の上演「未必の故意」

大下夏実@stage_natsumi Jun 15
【出演情報】
さんらん第７回公演
『未必の故意』 (脚本)安部公房
2019/8/8(木)-8/18(日)
http://stage.corich.jp/stage/100662

(会場)
パフォーミングギャラリー＆カフェ『絵空箱』

(料金)
一般：前売3,700円・当日4,000円
高校生以下：前売当日とも500円
いずれもワンドリンク代(700円)込み
全席自由

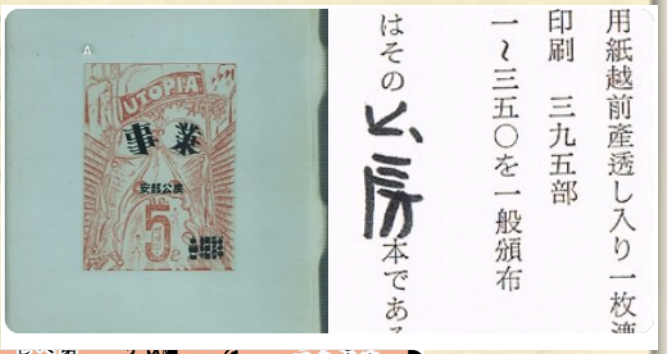


今月の棒の苦しみ

Female Trouble@百合の迷宮@yuri_no_meikyu 9 hours ago
なぜか中高の国語教科書に安部公房とかコルタサルとか良く載るんだけど、個人的に読むには嬉しいけど、あれを中高生に教えるのは厳しいわ。実は講師時代にちょうど安部公房の「棒」を教えるハメになって往生した事があるのを思い出す。

今月の入荷

古本 ケルン書房@origin02223374 Jun 9
新入荷情報
事業　安部公房
1974年6月　総革装・天金・アクリルケース付き　本冊は限定395部のうちの「公房」本、アクリルケースに「A」
「世紀末」叢書5の時間的變身
「時間的變身」とは粋だね



今月の安部公房的世界観

春モノクローム@rainyblack_jp Jun 9
「安部公房的世界観。」



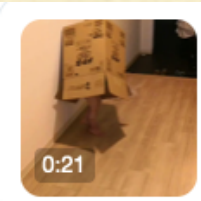
今月の志の輔師匠

坂本頼光 7/22月18:30 ナイト・オブ・シネマ日暮里サニーホールコンサートサロン　Jun 8
本日は府中の森芸術劇場・ #立川志の輔 一門会に昼夜色物で出演。ありがとうございます。打上げでは志の輔師匠と、亡き談志師匠や安部公房の話で盛り上がりました。 #落語 #活弁 #カツベン！ #坂本頼光 #無声映画



今月の箱男

よしとみらくる@yoshitomin3 Jun 15
よしとみらくる Retweeted よしとみらくる
これ、なにかににてると思ってたら、安部公房「箱男」だ



よしとみらくる @yoshitomin3
段ボールかぶって脅かしてたら、やりはじめた笑
Show this thread

今月のS・カルマ氏

madeleine@storyforf Jun 15
ぼくの心は体より十メートルほど先を歩いていたので、もうその椅子に腰を下してほっとしていたのですが、ぼくの体のほうは丁度ドアのところで急にわけの分らぬ変な気分に襲われ立止ってしまいました。
驚いたことに、ぼくの椅子にはもうちゃんと別なぼくが掛けていたのです。
―安部公房「壁―S.カ

音隅 管譜@otonezumi 19 hours ago
見渡す限りの曠野です。その中でぼくは静かに果てしなく成長していく壁なのです。　　―安部公房『壁』

文学作品冒頭bot@gakio_bot Jun 13
目　を覚ましました。
朝、目を覚ますということは、いつもあることで、別に変ったことではありません。しかし、何が変なのでしょう？　何かしら変なのです。
『壁』安部公房〈1951〉



いろは@10Fields Factory@iroha10ff Jun 10
安部公房『壁』
私、安部公房は日本のルイス・キャロルだと思っている。脈絡のない場面転換の数々に翻弄される。因みに安部公房は生きてるのに故人扱いされたことがあるそう。それだけ異彩を放っていたということなのかな。

今月の安部公房

昭和ガイド@showa_g Jun 13
昭和を振り返る画像。
『安部公房』
プロフィールは→https://showa-g.org/men/view/68
#昭和



今月の安部公房の電子書籍

んたろうお@sint_aro Jun 16
安部公房の小説をスマホで読みたくて電子書籍を探してみたらひとつもない。ドナルド・キーンとの対談集だけ見つかった。これも面白かったけど、読みたいのは小説である。英語版をkindleに見つけたけれど、彼の作品は日本語でしか読みたくなくて買うのを躊躇している。読んでみてもいいかなあ。

今月の安部公房読者による小説「手首」

かこ@ffawnn9 Jun 13
18.お気に入り

「手首」https://ncode.syosetu.com/n5394ea/

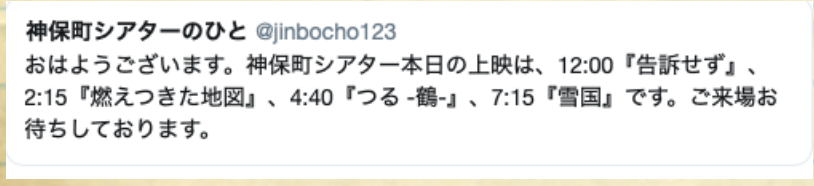
現実が非現実に侵され、妙な理屈を展開していく話が好きで(安部公房「バベルの塔の狸」とか)、それに憧れて書いた。でもオチはつけないほうがよかったなあ。

今月の安部づくし

Replying to @love_cats_dogs
そうかい、そのABEが、
安部理だか、安部真弘だか、安部憲二だか、安部公房だか、安部譲二だか、安部友裕だか、安部太だか、安部真弘だか、安倍晴明だか、安倍晋三だか知りませんが、固有名詞なんですね。
ところで、No Cross, no Christ.ってご存知？
Christって固有名詞ですが？

今月の映画上映「燃えつきた地図」

ホッタタカシ@t_hotta Jun 10
ホッタタカシ Retweeted 神保町シアターのひと
今週は神保町シアターで『燃えつきた地図』（1968）がかかっているのですね。原作脚本・安部公房、監督・勅使河原宏。主演は勝新太郎と市原悦子。海外で新たな映画化企画が進行中という話を十数年前に聞きましたが、その後どうなったことやら。



今月の石川淳

まさかな@l_elles Jun 13
記憶だけど、天安門事件のときの文学者の声明だったかの座談を思い出した。安部公房、川端康成、三島由紀夫、石川淳。石川さんはいいですね。他にも石川淳と三島由紀夫の対談とかおもしろいね

今月のオマージュ

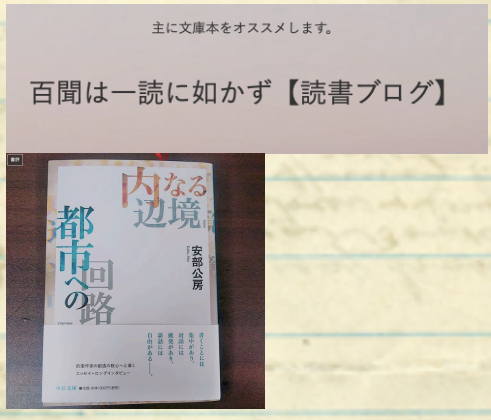
野良猫@C96日曜西し25b@nrnk_jp Jun 8
ｺ･(ｪ)･)ｺサークルスペースを見つけて荷解きをしようとすると「ここはお前のスペースではない」といわれ繭になってしまうんですね
雑に安部公房オマージュするのやめろ　⊂゜U┬──────┬~

今月のイタリア人安部公房
フッサール牛乳@hB288l6G7MGHYNp Jun 8
YouTubeでイタリアの家庭料理を観てたら安部公房みたいな顔のお母ちゃんが作ってます

今月の読書感想「内なる辺境　都市への回路」
しょ@読書垢@shobookcom Jun 7
内なる辺境、都市への回路　安部公房 著
中公文庫　#読了

感想を二回に分けました。ネタバレ注意です。

内なる辺境
https://shobook.com/utinaruhennkyou



しょ@読書垢@shobookcom May 29
前から欲しくてたまらなかったが、とうとう買ってしまった……
「内なる辺境、都市への回路」
安部公房 著　中公文庫

本が輝いている！
……えっ、昼ごはん？
知らない子ですね。



今月の砂漠の思想
ゆたか@W3nQc9 Jun 5
『砂漠の思想』安部公房
安部公房のエッセイ集。砂漠と日本の距離感を綴る表題作をはじめ、アメリカの大衆文化を肯定的に論じる「アメリカ発見」などを収録。満州という半砂漠地帯で育ったことが、著者の思想に大きな影響を与えているのがわかります。

今月の読書会
ののの@彩ふ読書会・読書垢@lapinrire May 26
“5/26読書会in京都”
京都で読書会を開催しました！
午前はオススメ本を紹介しあう形式の推し本披露会、午後は安部公房著「砂の女」を課題本とした読書会でした！
参加して下さった皆様、ありがとうございました！
#読書会 #彩ふ読書会 #京都



今月の安部公房絶望的愛読者：【奇妙な世界】安部公房の小説の魅力を語りました
https://www.youtube.com/watch?v=VYLuEtzqhcs&feature=youtu.be
2019/05/27 に公開
登録済み 137
三島由紀夫と並び世界的に評価の高い小説家、安部公房の魅力を語りました。
--*-

荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む
（１９）
最終回
解体現象学

岩田英哉

解体現象学

発射される言葉の機銃弾
見事に標的を射抜いたかに思えたが
発見されたのは弾痕にすぎなかった

弾丸は　どこに　消えた？

事件は迷宮入り……
フッサール氏の苦心　ヴァーチャル脳に弄ばれて
真理と信じて拾い上げたのは　空薬莢……

破壊され尽くしたダダの廃墟
ほじくり返してみたら
未発見の地層が現れた――
と、叫んだ精神地層学者がいたとさ、
その名はフロイト氏
すれ違ったブルトン氏、颯爽と
だが、解読コード、未だ発見せず。

かくして絵文字世代の若者たち
携帯電話で軽いおしゃべり……

ハーイ！
ウッソー！

街には
空虚な言葉ばかりが
溢れて堆（うずたか）く
廃棄処分を待つばかりの
われらの言葉は世紀末
バベルの時代へと転送された欠陥商品
神の仕掛けた蟻地獄

真理へ至る術なしと
気付いて「さて」と、
立ち止まり……
昼寝でもしようか
と、取り出す枕は
　マラルメ詩集

増殖するものは　癌細胞にも似て　とめどもなく
砂漠の空からあの声が響いた　そのときから
殺戮がはじまり　言葉が殺す
われらを
滅ぼすことを
悟らねばならぬ

言葉というものが
事物と対応していたあの時代は……
すべてが息づいていた少年の日を思え！
あの事物というものが、ひとつひとつ
驚異であったあのころを……

路傍で摘んだ一輪の花
その瞬間から花は薔薇と名付けられ
手にしていたのは造花の薔薇
ヒトは言葉を覚えすぎ　すべてを失い
神様の名を　口にしたその途端に　神が消え……
花を口にしたとき　そのものの――現前は失せて
立ち上がるものは　不在の花だ――とマラルメが言った。
轡（くつわ）を填めよ！
花を語ることは花を殺すことだ――とブランショが言った。

薔薇の墓標が薔薇十字
謎めき　道標（みちしるべ）　それが象徴（シンボル）
カッシーラに誘われて　太古の園に降り立てば
知恵の林檎は黄金色
思わず手にした失楽園
アダムとイヴの
それが　ほんとうの物語

＊＊＊

解体現象学とは、目の前の現実を解体するための現象学であるか、または現象を解体するための（現象学ならざる別の新たな）現象に関する科学であるか、あるひは、現象とは本来必ず解体されて行くものであるとして論ずる現象学であるのか、この学の意味は多様ですが、これらを併せて一語で此の学の名前だとして読むことのできる詩です。

この解体現象学の生まれた原因は、言葉である。

『無名詩集』のエピグラフ「私の真理を害ふのは常に名前だつたー読人不知ー」と同じ主題の元に書かれた、これは詩の一篇なのです。

この解体現象学の生まれた原因はどのやうな呼び方をされてゐるか。それは、

１。「発射される言葉の機銃弾」の弾痕
２。空薬莢
３。廃墟」
４。欠陥商品
５。蟻地獄
６。「現前は失せ」た其の存在しない現前
７。不在の花

これらの呼称は、どのやうな形象（イメージ）として呼ばれるか。この限りに於いて形象もまた名前で呼ばれる以上、言葉との関係では時間の中では自己撞着に見える再帰性を有してゐる事になりますが、しかし、さて、再帰的な形象は次のやうなものです。

１。迷宮
２。マラルメ詩集
３。薔薇十字の墓標
４。象徴（シンボル）としての道標（みちしるべ）
５。失楽園

２のマラルメといふ具体的な詩人の名前のある詩集を除けば、其のほかの名前はみな安部公房の世界の詩と小説に、手を替へ品を替へ名前を変へて繰り返し即ち再帰的に登場するものばかりです。マラルメ詩集に収められてゐる詩もまた『無名詩集』の詩に通ふ詩なのでありませう。マラルメは次のやうに言つた。

「神様の名を　口にしたその途端に　神が消え……
　花を口にしたとき　そのものの――現前は失せて
　立ち上がるものは　不在の花だ――とマラルメが言った。」

さう、安部公房の読者には自明なやうに、ものに名前を付けると既に、それは付けた名前のものではなくなるのです。花の名を呼ぶと「不在の花」が咲く。神様と祈ると神様は消える、即ち不在の神が現れる。

しかし、さうではない、（安部公房の用語を使へば）未分化の実存の時代があつて、私たちはみな存在への案内人で、自然に、あり、ゐられた時代があつた。それは、溶骨症の少女や「垂れ目の少女」がさうであるやうに、

「言葉というものが
　事物と対応していたあの時代……
　すべてが息づいていた少年の日を思え！
　あの事物というものが、ひとつひとつ
　驚異であったあのころを……」

といふ時代であつた。

安部公房曰く、言葉に意味はない、意味の運搬人になつてはいけない。「言葉というものが/事物と対応していたあの時代」は、言葉に意味はないとは知らずに、同時に意味の運搬人にならずにゐた時代であつた。それは無時間に生きる時代であつた。何故なら、あなたが意味であつたから。

「ヒトは言葉を覚えすぎ　すべてを失い」し理由は、言葉の機関銃を目的もなく打ち続けたからである。言葉による殺人事件は「迷宮入り」になり続ける。即ち建物は常に「破壊され尽くしたダダの廃墟」であり続ける。解体現象学である。しかし、これは地上の町の話だ、もぐらになつて地下に潜れば、言葉によつて廃墟とはなつてゐない「未発見の地層」があるだらうといふ「精神地層学者」の名前は、フロイト、ブルトンの二人であるが、しかし、共に「解読コード、未だ発見せず。」これら二人の精神地層学の限界は、二十一世紀の今極東の島国からみると、前者フロイトはキリスト教の、人間の生命を全面的に否定して不自然な、狭隘で偽善である性倫理の論理（全面否定の一部肯定的解除）を盲目的に無条件に大前提として論を立てたからであり、後者ブルトンは私たちに自明な超越論を知らなかつたからである。ブルトンは安部公房文学を一部となすことはできなかつたが、安部公房はブルトンのシュールレアリズムを自分の文学の一部となすことのできた理由です。即ち、かくして、精神地層学もまた彼の地では解体現象学に過ぎず、到頭「事件は迷宮入り」のお粗末。

しかし、わたくしたち安部公房の読者は彼の地で未だ発見されない「解読コード」を知つてゐる。それは、

「私の真理を害ふのは常に名前だつたー読人不知ー」

フロイトもブルトンもまたS・カルマ氏のやうに垂直方向に成長する（といふ事は時間のない方向であるので実は成長しては全然ゐない）壁になつてみればよかつたのだ、即ち言葉の意味そのもの即ち存在に。

「私の真理を害ふのは常に名前だつたーアンドレ・ブルトンー」
「私の真理を害ふのは常に名前だつたージギスムント・フロイトー」

と個人の名前を書いてゐる限り、彼の地の人間たちは「解読コード、未だ発見せず」で一生を終えることになるでせう。時局的な言及は極力避けたいが、しかし、そのために今彼の地の要塞は崩壊しつつあるのだ。更にしかし、この解体現象学はどの国にも生まれる現象学です。日本でも勿論「増殖するものは　癌細胞にも似て　とめどもなく」なつてゐる現実を見て、最後に詩人の言葉を「覚え書き」と題した後書きより引用して、あなたへの贈りものとなして、この稿を終ります。

詩の使命は〈存在の秘密〉に迫ることである。
言葉を〈存在の秘儀〉に近づけようと努力するのが詩人だと思う。

安部公房の読者に於かれては、「シャーマン安部公房の秘儀の式次第」を思ひ出して下されば、それで御仕舞い。

『周辺飛行』論
（１７）
３。『周辺飛行』について（１２）
『箱男　予告編そのII－周辺飛行１４』

岩田英哉

「周辺飛行１３」の『箱男』の予告編が本編『箱男』にはない文章であるのに対して、「周辺飛行１４」はほぼ同じ文章として本篇『箱男』に入つてゐるので、これは其のまま箱男の話です。

といふことは、安部公房の論理から云ふと、特定の章にある文章であるからこそ特殊の中の普遍といはむばかりに［註１］、何処にでもある章である事に等しい「周辺飛行」の箱男の話だといふ事になります。この論理は、「周辺飛行１３」の『箱男』の予告編が本編『箱男』にはない文章であるにも拘らず、結局同じ論理的帰結に変じてゐるのと同じである。

［註１］
特殊の中の普遍について。これについては、次の三つのエッセイがある。

（１）安部公房の札幌文学への批判（もぐら通信第６２号）
（２）周辺思考：第２１巻、３３６ページ
（３）独創と普遍：第２２巻、２２９ページ

「また、安部公房は後年１９８５年、６１歳になつても首尾一貫して『子午線上の綱渡り』と題したコリーヌ・プレのインタビューで次のように、同じ文学観を日本文学と世界文学に関する自分自身の位置として語っています。（全集第２８巻、１０４～１０５ページ）。
「――　安部さんは処女作『終りし道の標べに』から、すでに日本の伝統を拒絶しているように見えます。日本、もしくは世界文学の流れのなかで、自作をどのように位置づけているのですか？
　安部　その返事も誰か他人に任せましょう。僕も解答をぜひ聞かせてほしい。ただ言えることは、僕は日本語でしか考えることが出来ないということ。日本のなかで、日本語で考え、日本語で書いている。しかし日本以外にも読者がいるということは、現代が地域性を超えて、同時代化しているせいではないか。その点、言語の特殊性と普遍性についてのチョムスキーの考え方に同意せざるを得ません。すべての個別文法の底に、遺伝子レベルの深さで地下水のように普遍文法が流れているという考え方です。僕が拒絶したのは日本の伝統ではなく、あらゆる地域主義的な思想の現象に対してなのです。」（全集第２８巻、１０４～１０５ページ）。

更に、ドナルド・キーンとの対談『反劇的人間』の「第四章　文学の普遍性」に特殊と普遍に関する対話がある（『反劇的人間』全集第２４巻、２７７ページ～１７９ページ上段）」

そして、「周辺飛行１４」は、次のやうに始まります。冒頭の沈黙の記号「……」は「既にして」「最初から」（超越論的に）安部公房の存在論の記号であり、これは沈黙と余白といふ隙間（空間的差異）に存在する存在の話であり、時間的な差異として存在する遅延の話、即ち空間と時間といふ差異の交差した存在の交差点の話であることを意味してゐます。

最初に、安部公房固有の内省的話法である「僕の中の「僕」」といふ［註２］、作家の中の読者に呼びかける話法で話が始まつてゐます。

［註２］
「『デンドロカカリヤ』論（後篇）」（もぐら通信第５４号）より引用して、以下に、この安部公房独自の内省的・独白的話法についてお伝へします。：

「２。２　安部公房独自の話法（個別）

さて、それでは更に考へを進めて、この話者と話者に呼びかけられるコモン君の関係は、どのやうな関係なのでせうか？この答へがもう少し先の段落に書かれてゐます。

「ぼくらの病気はとりもなおさず、あのぼくとこのぼくが入れちがいになって、顔はあべこべの裏返しになり、意識が絶えず顔の内側へおっこちてしまう……、それが植物になることさ。」（全集第１巻、２３５ページ上段）

これは、「ぼく」といふ一人称の中に、もう一人「ぼく」といふ一人称がゐるといふことを言つてゐるのです。安部公房の話法は内省的であり、普通の話法とは違つて、この分複雑です。そして、これは其のまま、安部公房の終生変はらぬ作者・読者論であり、主観・客観論であり、主語・述語論であり続けました。

例へば、論ずる対象を問はず、政治的な社会現象を論ずる場合でも、同じ全集第２巻にあるエッセイ、『デンドロカカリヤA』（雑誌『表現』版を後年手を入れて再刊した書肆ユリイカ版と区別してかう呼ぶことにします）の前年に書かれた１９４８年の『平和について』に於いても、「僕の中の「僕」」に向かつて、話者（この場合の話者は、小説ではなくエッセイであるので安部公房自身）が話かけ、語りかけてゐます。（同巻、５７ページ）

『終わりし道の標べ』では、同じ論理が感覚の問題としては、「二重感覚」と呼ばれてゐます。（「第三のノート知られざる神ー」、全集第１巻、３６３～３６９ページ）合わせ鏡の世界にゐる再帰的な自己のことです。［註３］

［註３］
安部公房の此の再帰的な自己については、『安部公房の変形能力１７：まとめ～安部公房の人生の見取り図と再帰的人間像～』（もぐら通信第１７号）に詳述しましたので、これをご覧下さい。この論考から以下に一部の引用をします。：

「安部公房は、この再帰的な人間の持つ二重感覚を『終りし道の標べに』の「第三のノート―知られざる神―」中で、高という登場人物の口を借りて、「二重感覚」とか、「二重の判断や意志」とか、また「二重の意識」とか、そして「あの感覚」と言わせております。」

これは、私の中の私、一人称の中の一人称、自己の中の（もう一つの）自己といふことであり、後者の私、後者の一人称、後者の自己は、実は前者の私、前者の一人称、前者の自己から見れば、実は三人称の役割を演じてゐるのです。

上記の『平和について』では、このことを次のやうに言つてゐます。前後の脈絡がわかると一層よく理解ができますが、引用の量と解説が多くなりますので、最小限の量に留めて引用します。

「そして実用主義的にその人間学が「君」の（僕の中の）平和を創り出すだろう。（略）「彼」のということさえ危険だ。平和はあくまでも「君」の、そして其処に於けるものだから。」

「僕の中の「僕」」を巡つて、僕と君と彼が登場するのです。これらは皆、安部公房の意識の内部の一人称、二人称、三人称でありますから、それを示すために「僕の中の「僕」」と、後者の僕には一重鉤括弧が付されてをります。この「僕」が、「君」であり、「彼」なのです。そして、これらの人称が、そのまま安部公房の小説の登場人物たちの関係であるといふことなのです。

そして、上記の３つの人称の関係は、安部公房の世界を理解するためのキーワードである存在、象徴、部屋、窓、反照、自己承認の関係と繋がつてをり、これらの用語と一緒に論ぜられてゐて、２３歳の安部公房が哲学談義を交した親しき友、中埜肇宛の手紙に書いてゐる「新象徴主義哲学（存在象徴主ギ）」（『中埜肇宛第１０信』全集第１巻、２７０ページ）といふ安部公房独自の哲学の骨格をなしてゐるのです。

エッセイ『平和について』は、謂はば（同じ年に書かれた）『終りし道の標べに』の理論篇といふことができ、ここに書かれてゐる論理を以って、そのまま『終りし道の標べに』といふ実践篇を、それも上記に引用した「二重感覚」は勿論のこと此れもあはせて、理解することができます。安部公房独自の哲学については、『安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」入門』と題して稿を改めて論じます。」

これが本来の安部公房の語り始めであり、これが初期安部公房の場合に表立って特徴的なことは、この呼びかけが「僕の中の「僕」」即ち自分自身に対する、独白に等しい呼びかけであるといふことでした。ここで安部公房は、『デンドロカカリヤA』と同じ呼びかけを、二人称を使つて呼びかけて話を始めてゐる。そして、”もしあなたに多少でも時間的余裕があれば、ぜひともお願いしたいことがある。箱男と同じ箱をつくって、ほんの二、三分でいいから、かぶってみてほしいのだ。”

と始まる冒頭の段落の最後の一行「箱の製法は次のとおりである。」とあつて、書かれる箱の製法は、単なる箱の製法ではなく、安部公房の存在論の記号で括られた《箱の製法》であつて、従ひ、この記号化された《箱の製法》の意味するところは、あなたが此のマニュアル通りに箱を製作したら、あなたの箱は存在の箱であり、これを被るとあなたは存在になりますよ、といふ意味である。

この冒頭の箱の製造マニュアルは、このまま、安部公房の読者にいふまでもないことですが、無粋を承知で云へば、従ひ、存在へのガイドブック（案内書）、いや、殊更に影を表に出したければ《ガイドブック》と書く事によつて、実際の時間の中のあなたはあなたの影を失ひ、『バベルの塔の狸』の主人公、詩人のアンテン君のやうに透明人間になつてしまふこともできるのです。これが、安部公房の主人公たちが透明になる論理的理由なのです。透明になることは存在になることであり、人間の影を失ふことである。だから、影がなければ人間にはなれない。穴がなければドーナツにはならない。といふ、これはtopology（位相幾何学）の論理です。無駄と見え、なくても良いと思はれ、無為であると人も世間も思ふものにこそ宇宙の本質があり、その穴から（無と云ってもいいでせう）、森羅万象が生成する。といふことですから、ここままで来れば、老子荘子の世界となんら、箱男の

世界も変はらないといふ事になります。逆に云へば、老子荘子も超越論で考へたといふならさうも云へるのですし、そうであればこそ、荘子は夢に胡蝶となるとふことができてゐるのですし、この解釈と原理的論理のどちらが先か後かといふ議論は［註３］、それこそ超越論であつて、論争を超越してゐますので、これを論ずることは無用無益なことです。夢に胡蝶となるのか、胡蝶が我を夢見たのか？あなたが《箱の製法》といふ夢のガイドブックに従つて箱を作るから夢を見たのか、夢を見たから箱の製法のガイドブックが《箱の製法》といふ夢のガイドブックになつたのか。

［註３］
老子の道徳経の第１章は次のやうに、名前と道（存在）の話ではじまる：
「道の道とすべきは常の道にあらず。名の名とすべきは常の名にあらず。無名は天地の始め、有名は万物の母なり。」（http://www.nihondokan.co.jp/spcont/book_dotokukyo03.html）

さて、このやうに考へて来て、改めて此の「周辺飛行」といふ題名を見てみると、《箱の製法》といふ存在へのガイドブックに則つて箱男になることは「周辺飛行」することだと判る。何かの周辺を飛行することは、存在になることである。周辺を飛行するといふことは白紙の上にあなたが一筆書きで何かを描くことですから、これは一筆書きといふことからtopologyです。即ち、あなたが《箱男》になつたら「いつの間にか」（超越論的時間）あなたはtopologyといふ数学を使つて、ありとあらゆる物事を接続し始めてゐるといふ事になる小説、これが『箱男』といふ小説であり、主人公箱男の《周辺飛行》だといふことになります。周辺飛行は存在への/からの/をなぞる飛行なのであり、また逆に一筆書きをすることで存在を生み出す飛行でもあるのです。荘子は夢に胡蝶となる。しかし、この解釈と原理的論理（topology）のどちらが先か後かといふ議論は、それこそ超越論であつて、これを論ずることは無用無益なことです。とにかく、《箱の製法》を読み、《箱の製法》に従つて存在の箱を製造し始めたら、もう時すでに遅し、あなたの意識は「いつの間にか」（超越論的時間）箱男に「なつてしまつてゐる」のです。さうして完成した箱を被つて街に出てゆくと、あなたは時間の存在する街中にゐて、存在の箱といふ時間の存在しない箱を被つた存在、即ち未分化の実存と安部公房の呼ぶニュートラルな存在となつてビルの隙間に何思ふことなく身を潜める。

そして、”もしあなたに多少でも時間的余裕があれば、ぜひともお願いしたいことがある。箱男と同じ箱をつくって、ほんの二、三分でいいから、かぶってみてほしいのだ。”と存在の詐欺師（勿論超一流の詐欺師です）安部公房にいはれて、ほんの二、三分ならと思つて被つたが最後、これが始めも終わりもない「二、三分」だといふ事に気付いた時には後の祭り、この安部公房の箱製造懇願文といふべき祈願文の後に続く”絶対に副作用がないとは、断言できないが、食塩だって量を超えれば毒になりうるのだ。”といふ言葉の通りに「絶対に副作用がある」ことを知り、あなたは「量を超えた」食塩に「いつの間にか」なつてしまつてゐて、絶対的な副作用に殺（や）られてしまつてゐて、即ち質に転化してゐて「毒になりうる」どころか毒になつてゐて、時折襲撃者に火掻棒か空気銃で襲はれる事になる。

だから、これは「箱男　予告編」なのではなく、もやは此の予告編は「明日の新聞」なのであり、『第四間氷期』の予言電子計算機なのであり、「既にして」あなたの身に起こつたことのある出来事なのです。さうして、本編『箱男』を読みながら、あなたは自分自身を、即ち「僕の中の「僕」」を思ひ出す。ああ、俺は/私は迷路だったのだ、と。さう、箱の中は、箱が閉鎖空間でありながら、無限の迷路の空間であることを思ひ出すこと［註４］、これがあなたが自分自身を思ひ出すことなのです。勿論、その時には後の祭り、時既に遅しであるが、しかし此れが私たちの人生であるです。何故なら安部公房の超越論の世界認識は、世界は差異であり、時間的差異ならば、それは遅延であるからです。空間的差異は？それは、「周辺飛行１３」の冒頭にあつたやうに、立体交差点に「いつの間にか」あなたは立つてゐる。交差点に立つから箱男になるのか、箱男になるから交差点にゐるのかは依然として不明である。

［註４］
安部公房のこの論理は初期の『天使』にも次の箇所がある終生変はらぬ安部公房文学を貫徹するtopologyの論理です：

「実の所を言えば、私も始めこれは唯の部屋だと思っていた。所があにはからんやである。これが宇宙そのものだったのだ
そして冷たい壁だと思っていたものが、実は無限そのものであり、恐ろしい不快な鉄格子だと思っていたものが、未来の形象そのものに他ならなかったという訳なのだ。」

この『天使』の主人公の口にする「箱の中の論理」を作中論じてゐる作品には次のものがあります。

１。箱男（全集第２４巻、４１８ページ）
２。使者（全集第９巻、２９５ページ）
３。人間そっくり（全集第２０巻、２４３ページ）
４。様々な光を巡って（全集第１巻、２０２ページ）
５。周辺飛行４ー自己犠牲（全集第２３巻、１２８ページ）
６。問題下降による肯定の批判：トポロジーの町の創造＝雲間より漏れ来る一条の光（全集第１巻、１１ページ）

かうして、次回の話はゴム人間といふ夢人間についての周辺飛行の話になるのです。ゴム人間があなたを夢みるのか、あなたがゴム人間を夢見るのか。この両方を称して夢人間と呼ぶ事にします。さあ、その上で、二項対立を超越して第三項を求めて生きたいと時間の中で切実に願ふ安部公房読者であるあなたには、その答へは問ふ前に「既にして」「いつの間にか」（共に超越論的時間）「どこからともなく」（超越論的空間）出てゐるのではないでせうか。

ところで、いつもの安部公房の存在論の記号（　）、即ち主体客体の等価交換される沈黙と余白の場所は一体この「周辺飛行１４」のどこにあるのだ？と問ふてみると、やはりあるのです。それが、ここまで論じて来た《箱の製法》といふ存在へのガイドブックの次に、

二つの＊の柵を超えた向かふにある、S・カルマ氏が話の最後に飛び越える★印の向かふにある砂漠の中で垂直方向に果てしなく成長して行く壁になるやうに、同様に、読者であるあなた自身が無時間の中で垂直に際限なく成長する箱男に「いつの間にか」なつてしまつてゐる。垂直方向は時間の存在しない方向です。ですから、あなたは成長しない。即ち此の＊の柵といふ時間と無時間の境界線、即ち境界線といふ周辺飛行をして其の境界線を越えたところで、あなたの意識の内部と外部は等価交換されてしまつてゐて、「いつの間にか」あなたは存在といふ無時間の存在になつてゐる。即ち「僕の中の「僕」」、「私の中の「私」」になつてゐる。これが《箱男》であり、《壁》であり、「ほんの二、三分」が「いつの間にか」永遠に「なつてしまつてゐる」あなたである「僕」である。

「最初ぼくは夢のことを書こうと思っていた。夢の特徴の一つは、その自覚症状である。夢を見ながら、それが夢であることを、ぼんやり、あるいは鮮明に意識していることが珍しくない」といふ「僕」の話が、次の章のゴム人間の話で、これは其の冒頭です。ゴム人間も周辺飛行をするらしい。《ゴム人間》も《周辺飛行》をするらしい。《ゴム人間も周辺飛行をするらしい。》

”もしあなたに多少でも時間的余裕があれば、ぜひともお願いしたいことがある。箱男と同じ箱をつくって、ほんの二、三分でいいから、かぶってみてほしいのだ。”

全自動ベビーカーのデッドヒート

第一回　ぼくらはスーパーマーケットを襲撃する

木石岳

（一）もぐら通信は安部公房についてのウェブ雑誌。
（二）ぼくは安部公房の良き読者だけど、研究者ではない。だから自分のことについて書く。
（三）中学二年生か三年生の授業中にぼくは箱男になった。学校にある大きなダンボールをいくつか組み合わせて、それをかぶって学校で一日過ごした。友達からは呆れられたり、笑われたりしたが、特に大きな注目を集めることはなかった。ましてや先生に怒られることもなかった。授業も終わり、ホームルーム中もずっと教室の隅で箱の中で生活して、放課後になると箱を被ったまま帰宅。途中、駄菓子屋に寄ってチョコレートを買った。帰り道に一度だけバイクに乗った郵便屋に呼び止められたが、それ以外は特に何も。家に帰ってようやく箱を脱いで部屋に飾った。その後何日か部屋の隅に箱が置いてあったが、何かのタイミングで処分してしまった。
（四）高校生の頃、学校の図書館にある安部公房の本をすべて盗んで帰った。貸し出しカードには、誰もこれらの本を借りた形跡がなかったから。今でもそれは家の本棚にある。
（五）ぼくはこの話をベビーカーに乗って書いている。体の大きな赤ちゃんだ。もう記憶にないけど、何年も何年も前に母親の体の中から飛び出て大声で散々泣き喚いた後は、ベビーカーにポンと乗せられてほら、さあご覧これが世界ですよ。ベビーカーは全自動のスイッチを押されて走り出す。屋外に出ると日差しを避ける幌とフットカバーが飛び出した。

-

坂本さんの手をひいて電車に乗って、障害者の自立生活に関する会合に連れていく。彼は全盲の老人で、障害者に関わる一般社団法人の代表者だ。たまたま運悪く坂本さんをその会合に連れて行く介助者が捕まらなかったので、そういう時はぼくに連絡がくるのだ。ぼくにはぼくの仕事があるが、かわいそうな盲人の要求を断るわけにはいかない。介助者の電車賃は無料だが、この失われた数時間はでかい。もう七十歳になる坂本さんは、つい三日前に大黒寿司で日本酒を飲み尽くした帰りに顔面を電信柱にぶつけて右目の瞼が野球ボールくらい膨らんで赤黒くなり、鼻から噴出した血が口を経由して顎まで垂れて固まっているが、病院にもいかず、なんの治療もしないしとくに誰もそれを気に留めない。フランケンシュタインが生み出した怪物にも見えるし、ミラ・ジョボビッチを襲う群衆の一人にもみえる。二時間の会合の後にはまた坂本さんを迎えにいって、彼を仕事以外で唯一受け入れてくれる大黒寿司に連れていかなければならない。彼はそこに寿司を食べにいくのではなく、ツケで酒を飲むためにいくのだ。大黒寿司の大将は歯がほとんどすべて抜けていて、何を喋っているか全

くわからない。この店のママは東北で起きた津波についてのドキュメント番組を思い返して涙しながら部屋の隅にでたゴキブリを踏み潰す。店の壁はママが趣味で描いた地獄のような絵で埋め尽くされている。寿司屋の仕事以外の時間帯に、彼女は様々な色のペンを使って画用紙に思いつくままの絵を描くのだ。大概は鼻や目などの顔のパーツの一部分だけが大量に画用紙いっぱいに描かれていて、それは一見すると草間彌生の変種のようで、誰が見ても寿司屋に飾るのに相応しい絵だとは思えなかった。ぼくは密かに彼女の絵をどうにかしてアウトサイダー・アートを取り扱うキュレイターに知らせる方法はないかと考えていた。歯抜けの大将はロード・オブ・ザ・リングのゴラムのような見た目をして、人懐こくけたけた笑っているので、話す内容はわからないが機嫌が良いことだけがわかる。本当に彼の言葉を真剣に聞き取ろうとすれば、周りの客全員に黙ってもらって、若くて感度の良い耳を両方とも大将に向けて、じっと息をせずに静聴しなければならない。でも誰もそんなことはしない。常連も一見の客も、日本酒を飲みながら場の空気で会話をするだけで、あとは大将の笑顔さえあれば成立する。ぼくは他に客が誰もいない時に究極的な静寂の心とジョン・ケージ的リスニング意識を高めて大将が何を喋っているか解読したことがあるが、彼は口をひらけばダジャレを言っていた。歯抜けの大将が実はダジャレ好きのおじいさんだったということを、ぼくはその店の客の中で初めて発見したのだ。ハッピー・ニュー・イヤー（ear）！　坂本さんを大黒寿司に送り届けたぼくは「一杯飲んでいきなよ」という坂本さんの誘いを頑なに断って、ようやく自分の時間を手にいれる。そしてこれからぼくはファミレスの喫煙席で、たまりにたまった音楽活動のプロモーション用資料の作成に取り掛かるのだ。macaroomが今後どうやったら家入レオのような似非アーティストを完全ノックアウトして、次のミュージックステーションの出演チケットを手にいれることができるのか、それについてじっくり考えなくてはならない。喫煙席ではシュプリームを着た男が年下の女に中国とアメリカの貿易摩擦について偉そうに語っている。彼女が席を外した隙に、ぼくはその男を殴りたくなる。シュプリームの赤いロゴはぼくにとってはただの赤信号。そいつには近づくな。カウンター席では現役を引退したヤクザがホーキング博士とマルチバースと竹島問題について語っている。彼らは皮肉を込めてわざと竹島のことをドクトと呼んでいて、それで自分たちが政治的なユーモアを持っているイカした男なんだと思い込んでいた。それから、韓国人は脳みそがキムチで出来ているという薄汚い卑怯な発言もぼくはきいた。

　兄は清掃アルバイトの給料を握りしめて池袋の大衆居酒屋「大都会」へ駆け込んで発泡酒とマグロの刺身のチケットを買う。券売機が導入されている居酒屋は後腐れなく飲むことができる。会計で想定外の金を取られることもない。池袋駅前では山本太郎議員が政府の資産と借金についてバランスシートといくつかの具体的な数字を列挙して語っている。友人のジョンは塾講師の仕事を辞めて毎日実家で釣りをして過ごしている。他のいくつかの友達も、仕事を辞めるか、仕事をやめずに体調を崩すか、別の仕事を見つけてこれですべて良くなるって自分自身に言い聞かせているかだった。誰も仕事になんか行きたいとは思っていない。髪を切ることを強要されて、先輩からはきちんとメモを取るように言われるだけの仕事だ。山本太郎議員が総理大臣を強く罵った。そうだ！　その通りだ！　とぼくは思うが、本当のところ、ぼくはここ数年投票には行っていなかった。音楽活動をしているからだろう

か、まわりの人たちはわりと共産党に票を投じている人が多いような気がする。だがぼくはどこにも投票していなかった。家にはテレビもなく、YouTubeにアップロードされた情報番組とＳＮＳが時事問題のすべてだった。ぼくは自由に見たいものを見ている気でいるが、所詮はツイッターやユーチューブのおすすめ動画のアルゴリズムに操られ、白目で泡を吹きながら、糞尿垂れ流しでそれを受け入れているだけだった。

ぼくは中学二年生の時に安部公房の『笑う月』を読んで以来、バイブルのように彼の本を抱えて本当に苦しい思春期を乗り切って、新潮文庫の『箱男』をズボンの後ろポケットに忍ばせてライトセーバーのようにいくつもの局面を乗り切ってきた。見るものには愛があるが、見られるものには憎悪がある。これはその小説の中の一節だ。月がぼくらの生活を暖かく見守っているように、また高い知能を持った地球外生命体が人類の幼年期の終わりを高次元から観察しているように、またみうらじゅんが『アイデン＆ティティ』でボブ・ディランやジョン・レノンからの厳しい視線に苦しんだように、ぼくは都会の薄汚れた路地や商店街の八百屋の横のなんだかよくわからないスペースに箱男がいて、段ボールに開けた郵便ポストのような窓の奥から、じっとひん曲がった愛の目で見られているのを感じて生きているのだ。彼らはぼくらのデッドヒートを観察している。ぼくはついに文庫版の『箱男』の表紙デザインを埋め込んだＴシャツを自作して、それを着てライブに出演するようになる。ぼくは体の大きな赤ちゃん。赤子のままこの国を滑走する。それは別に、資本主義的な競争社会のレースというイメージじゃなくて、なんだろう、病院で繰り広げられる赤ちゃん同士のマッドマックス。無邪気なデスロード。そうだ、『愛の眼鏡は色ガラス』という戯曲がある。だれが医者でだれが患者かわからない物語。『ウェー』という、だれがウェーという生き物でだれが人間かわからない舞台もある。それから『人間そっくり』は、火星人だか人間だか区別がつかない。『鞄』は、人が鞄を運んでいるんだか、鞄が人を運んでいるんだかわからない物語だ。ぼくらは知らずしらずベビーカーに乗せられて、無知なまま、無知であることも知らずに、システムの中で延々と走り回っている。ぼくはツイッターで自分の意見を投稿して、次のライブの告知をして、ゴールデン・レトリーバーが人間の赤ちゃんに毛布をかけてあげる動画をリツイートをして、面識のないそれほど美人でもない女が裸同然のアニメのコスプレをした写真を見て、東浩紀さんの落ち込んだツイートや高須クリニック社長の挑発的なツイートを読む。ツイッターは観察と発言の繰り返しだけど、ツイッター社の廊下の一番奥にはきっと指紋認証とパスコードで頑丈にロックされた、たった数人の社員しか入ることの許されない部屋があって、そこには完全なる観察者として何も発言せずただ世界中のツイートを見守り整理するだけのシステムが存在するのだろう。プログラミングされた箱男はなんらかのアルゴリズムで気まぐれに人々を引き合わせたりしつつ、膨大なデータをひたすらに蓄積する。安部公房はツイッターを気に入っただろうか？　批判的だっただろうか？

安部公房は都市について書いていて、他者について書いていた。他者というのは男にとっては女のことだし、健常者にとっては障害者のことだ。盲目の坂本さんは、鼻から吹き出した血を拭き取ることもせずただ自然乾燥させていたから、道行く人をぎょっとさせた。目はただ腫れ上がるだけじゃなく、垂れ下がっていた。老いぼれの張りのない肌にとっては大きく腫れた目は重たすぎるのだ。白いステッキを手に持ち、もう片方の手をぼくの腕にまわ

す。酔っていなくても千鳥足だ。「もうほとんどゾンビですやん」と言うと、坂本さんは「だろ？」と錆びれた声で誇らしげに笑う。

閉鎖されたスーパーマーケットをゾンビが襲撃する。その映画で主人公は最後には屋上からヘリコプターで脱出する。ぼくらはゾンビのように、なんらかの単純なアルゴリズムによって、よろめきながら無人の婦人服売り場を徘徊する。ぼくにとって、都市とはそんなイメージだ。主人公のいなくなったスーパーマーケットで、残されたゾンビたちが無目的に動き回る。ゾンビは人間にとって他者だけど、ゾンビだって、他のゾンビについてはまるっきり他者なのだ。ゾンビたち同士でコミュニケーションをとることもない。

安部公房が一九六四年に発表した長編小説『他人の顔』は、ゾンビのようになった主人公が他者について考える話だった。世界で最初に安部公房をチェコ語に翻訳した女性がインタビューで、チェコ語には「他人」という言葉がない、ということを言っていた。だから『他人の顔』はチェコでは「そのもうひとつの顔」と訳されたらしい。彼女はその後東京に住むようになってからしばらくして、「他人」という言葉の意味がふいに理解できるようになったらしい。

ぼくは圧倒的な都市の中にいて、中学生のときに獲得した安部公房的な世界観をズボンの後ろポケットにいれている。音楽活動をして、それから執筆もしたりする。「他人」という言葉の意味がわからなくても、都市を徘徊している時や、居酒屋大都会から出て池袋北口のリトルチャイナに潜り込んだ時や、障害者の会合の送り迎えやシュプリームの男にイラついているときに、その言葉の意味を感じ取る。ぼくは大人になりたい赤ん坊なのか、子供に戻りたい大人なのかわからないけど、全自動のベビーカーは、『カンガルーノート』という物語からのイメージだ。この小説では、主人公は全自動のベッドに乗って、病院から抜け出して死の国にたどり着く。ぼくの色ガラスは安部公房の分厚い眼鏡よりももっと分厚いので、それに箱男がダンボールの中からのぞく小さな窓よりももっと小さいので、ここに書く観察記録は、それほど明晰なものにはならないだろう。

笑う月がぼくを追いかける。それを睨み返すと、坂本さんから電話がかかってきた。ろれつが回っていない。彼を送り届けてから数時間経って、今もまだ同じ場所で飲み続けているのだ。ぼくは狭い喫煙所での電話は好きではなかった。挨拶もなしに本題を喋る、それが坂本さんだ。

「あのなあ、がく、あの、モナリザってあるだろ、なあ、モナリザっていう絵があるんですよ、そうだろう？　あるだろう？　あるんですよ。あのな、あのモナリザっていうのは、笑っているとはおれは思えないんだよ。なあ、がく、そうだろ？　大黒のママは違うっていうんですよ。そうなんですよ。あれはじゃ・・・じゃく・・・じゃ・・じゃあく、あの、邪悪な顔をしてるだろ？　がくはどう思う？　わかりますじゃないんだよ。こういうのはな、白か黒かしかないんですよ。なあ、どっちかしかないんだよ。え？　そうか。やっぱり、がくもそう思うだろ？　あれはやっぱりじゃ・・・じゃく・・・邪悪な顔だと思うだろ？　大黒のママはそれが違うっていうんですよ。なあ、やっぱりがくもそう思うだろ？　あと、あの、あれなんですよ、今日は色々とごめん」

--*-

（六）顔面血だらけの視覚障害者がモナリザに何を言うとんのや、とは言わずぼくは電話を切る。つまり、安部公房だったらこう書くだろう。スーパーマーケットを襲撃するゾンビと、婦人服売り場の試着室に隠れる人間。読み進めるうちに、どっちがゾンビなのかわからなくなってくる。生き残った人間が屋上からヘリコプターで脱出したあとは、残されたぼくらは無目的に徘徊する。二階のおもちゃ売り場や、一階のフードコートを。他者とのコミュニケーションの困難さは、絶対に自分はゾンビではなく、相手はゾンビなんだという思い込みに過ぎないんだと思うわけだ。目の見えない坂本さんは顔面血だらけでモナリザの微笑みについて議論し、たまたま大黒寿司に入ったカップルは度肝を抜かれて離れた席に座る。ぼくらはスーパーマーケットを襲撃する。ついでに言うと、ゾンビたちが残されたスーパーマーケットには大抵、起動を待つばかりの時限爆弾が設置されるのだが、これは単なる喩えの話。

私の本棚

西村幸祐著

『韓国のトリセツ』

岩田英哉

このトリセツを読むと、韓国はシミュレーション・ゲーム国家だといふことがよく判る。国家そのものが歴史にIFといふ条件文を立てたらどうなるかといふ架空の現実を描いたシミュレーション・ゲームの、そして/しかし現実の、この隣国の韓国といふ国はIF文だけで成り立つてゐる国だといふことです。これは「信長の野望」などといふゲームソフトと同じです。韓国はシミュテーション・ゲーム国家であると断じて（誰も反対しないだらう）、そのゲームの攻略本として書かれたのが此の「韓国のトリセツ」である。

この本を読むと、このことがはつきりと解つて、非常に頭の中がスッキリします。

この場合の商品名は「韓国の野望」といふべきか、はたまた「韓国大統領の野望」といふべきか、「大韓民国々民の野望」といふべきか、いづれにせよ、どのIF文を日本人のゲーマーが選択しても常に韓国が勝つて、日本の国から金をせしめることに成功するといふ乞食出世物語のストーリーになつてをり、捏造歴史戦の画面の左上には金ピカメッキに輝く宝箱があつて、日本が負けるたびに日本からせしめた金がチャリンチャリンと金貨になつて貯金される設計になつてゐる。

ゲーマーの冒険のステップが進むとステップごとに負けるための道具を嫌でも手に入れねばならず、それを手に入れるたびにシミュレーション・ゲーマー日本は自虐的にパワーが落ちて行く。このゲームはパワーゲームではなく、パワールージング・ゲームである。この場合、落ちて行くのはパワーのみならず、勿論日本の国と日本人の威信も名誉も道徳もチャリンチャリンといふ金貨の音ともに堕ちて行くのである。

といふ一方的なゲームにも、もはや賞味期限が来て、寿命が尽きましたよ、日本のゲーマーの皆さん、さあ、頭を「戦後」ヴァーチャル脳から令和リアル脳へと切り替へませう、と呼びかけるために筆者の書いたのが、この「「韓国の野望」攻略本」で、今書店に並んでベストセラーである。もし見つからなければ、間違ひなく、ゲーム攻略本の棚に並んでゐます。詩集を刺繍本の棚の中に並べる書店員がゐるので、この可能性は非常に高いのです。

この本の表は其の通りの題名であるが、裏の題名は「「韓国の絶望」攻略本」といふのである。裏の題名を表にし、表の題名を裏にして朝鮮語に翻訳したら、シミュレーション・ゲーム国家大韓民国でもベストセラーになる筈だ。是非朝鮮語に翻訳すべきだといふ読後感を持つた。その場合、もはや賞味期限が来て、寿命が尽きましたよ、韓国の

ゲーマーの皆さん、といふ呼びかけの一行が本の帯文を飾ることになるだらう。

しかし、この攻略本を読んでゐて、ふと気がつくと背筋が寒くなつたのだが、シミュレーション・ゲーム国家とは「戦後」７０有余年の日本のことでもあるのであつた。それ故に現下の日本は韓国にそつくり（シミュレーション）なのだと気づいたのである。この本を読み、ふと気づいて周りを見渡せば、日本国憲法を戴いてゐるものの、このシミュレーション国家では、上は政治家、法曹界、行政官僚から下は庶民に至るまで、誰も法律を守る者はなく、無法地帯のシミュレーション・ゲームの世の中である。私たちは日本国憲法といふシミュレーション・ゲームで自虐的に遊んできた「戦後」７０余年のうちの特に遊びすぎて政治を忘れ道徳を忘れた平成の３０年間なのであつた。

１９６０年代の日本人は高度経済成長期に自らをエコノミック・アニマル（経済動物）と自称したが、自虐性はなかつた。しかし、今や日本人はマネー・ビースト（ゼニ野獣）と化して、自国と距離を失ひ、それ故に恥じるところがないといふ無道徳の惨状である。「戦後」日本が製作してきたあらゆるゲームソフトは日本が負け続けるシミュレーション・ゲームのストーリーであつて、今や韓国が乞食なのではなく、気がつけば、日本が乞食国家になつてゐたのである。

誰が日本の小説家で、猿真似でもいいから「菊の花が咲きました」といふ小説を書くやつはゐないのか（同書１２６ページ参照）、そして、これを映画化して、更にはシミュレーション・ゲームにしてゲーム業界で大儲けしようとするマネー・ビーストよ出でよ。

そして、このゲームのシナリオからは、著者の書いてゐるやうに、ストーリーから次に引用する日本の過ちが最初から排除されてゐる日本製のオリジナル・シナリオにして欲しいのだ。「戦後」７０余年の日本は自国製の勝利のシナリオを書いたことがなかつたのだから。

「スペイン出身の米国哲学者ジョージ・サンタヤーナ（一九六三年〜一九五二年）が言った「歴史に学ばない者は、過ちを繰り返す」という言葉は真理だろう。日本は絶対に、朝鮮半島併合を繰り返してはならない。
　一九一〇年の日韓併合は近代日本の過ちだった。二十一世紀の現時点で振り返ってみたとき、何ひとつ得るものがなかったというのは、過ち以外の何ものでもなということだ。マイナスでしかなかつたことは、歴然たる事実である。」（同書２３０ページ）

私が次に著者に期待する攻略本の名前は、中華人民共和国と朝鮮半島の統一高麗連邦と日本国を舞台にした近未来シミュレーション・ゲーム「「三国志」攻略本」である。いや、待てよ、その前に、日本人のための「日本のトリセツ」を書いてもらふことの方が先である、と気づいて、また愕然とするのである。

私の本棚

秋川久紫新詩集
『フラグメント　奇貨から群夢まで』を読む

岩田英哉



奇貨と超獣の交差する十字路に存在する「無能な敗残者たち」即ち《フラグメント詩》

詩人が法律用語を使つて詩を書くことは本来禁忌（タブー）です。何故なら、詩とは法律の外部にある何かであるから。もし法律用語を使つて詩人が詩と称するものを書いたら、それは詩の首を縊（くび）り、これを殺す自殺行為です。何故なら法律用語は詩の言葉を否定して成り立つ言葉の世界であるから。

しかし、秋川久紫といふ詩人は、この禁忌を積極的に犯してまでして此の詩集所収の詩篇を書きたくて書いた。これは、自分の言葉が詩になるかならぬかのギリギリの境界線の上にたつて書いたといふことを意味してゐる。法律の外部にある何かである詩の言葉と、法律用語を併せて使ひ、従ひ此の組み合わせを意図的に用ひて、法律の内部にある何かをも隠喩（メタファ）として外部へ連れ出して歌はうといふこと、そして社会の外部をも法律用語を隠喩（メタファ）に変形させて、法律の元にある何かを詩の内部で歌はうといふこと、これが此の詩集のtopological（位相幾何学的）な等価交換と富の創出の試みです。

この詩集の詩のPoesieは「エスキス」といふ言葉の中に凝縮されてゐることが一覧で判る。何故ならどの詩篇の名前も最後はエスキスで終はつてゐるから。一覧で判る程にさうであれば、これらの詩篇の純度は高いでせう。即ち、これらの詩篇は徹底的に様式化されてゐるといふことです。

この様式は、詩人の「あとがき」によれば、この詩集の最初に配置されてゐる「身代の移転もしくは奇貨の認定を巡るエスキス」を発表してから「約一年半にわたって一つのモチーフについて記した（時に戯曲風の台詞の如き相貌を持った）五部構成の断片の内側に、位相の異なる四部構成の断片を織り込む手法により、計二十三篇の《フラグメント詩》」と呼ぶ、それが所収詩篇の様式です。

作中、前者即ち五部構成の断片は各詩篇に《　》の記号で見出しが掲げられ、後者即ち四部構成になる各詩篇の歌ふ固有の領域の「経済用語、会計用語、IT用語など」は、【　】の記号で見出しが掲げられて、読者に識別ができるやうになつてゐる。言ひ換へれば、五部構成の断片は各《詩篇》を経糸（たていと）に、四部構成の断片は各【詩篇】を緯糸（よこいと）に、詩集は文字通りに一枚の織物であるやうに織り成されてゐる。文字通り力技で編まれた詩集です。この経糸と緯糸の交差する文目（あやめ）に立つのが「漢語や古語、彩色された超獣への置換による韜晦」である。即ち韜晦が文目のPoesieの十字路に現れてゐる。

詩人が位相といふ言葉を使つて詩の由来を説明する所に従ひ、topological（位相幾何学的）に目次を眺めて詩集の最初と最後の詩篇に眼を遣ると、この詩集の性格が判然とする。それは、奇貨は偶然、超獣は必然である、といふことです。

さうして、この両極端の二つの間に《フラグメント詩》は断片として存在し、然してエスキスとして分布してゐる。

この相反する二つの、定義されて揺るぎない専門用語と詩の柔軟な言葉の二つを一つに纏める場所、それがエスキス（言葉による素描）であると自然に理解される。エスキスとは辞書によれば、詩人の好みの絵画の世界のフランス語の専門用語である。社会内部・法律内部の専門用語には社会外部・法律外部の美術専門用語を充てて均衡をとつたといふ事になる。といふことは、この詩集は、言葉の織物としての素描（スケッチ）の画集を読むやうに読めば良いといふ事になる。では、そのやうに読んでみると一体この詩集にはどんなPoesieがあるのか？

私たちはPoesieといふ最高度の概念に匹敵する言葉を詩の世界の内部には持たないので、隣接領域の同格の用語を借りて来れば、それは存在といふ言葉であることが判る。存在は、この詩人の場合には、Poesieといふよりも一層似つかわしい。

この詩人のこれからの可能性は、専門用語を捨象して詩を書く事だと思ふが、これは専門用語の廃棄ではなく、当該概念の「承継」（法律用語）、ではなく、継承（一般用語）、です。さうすれば、一般的な言葉を詩の言葉に洗練させて此の必然と偶然の交差する存在の十字路を歌ふことになり、それは間違ひなく隠喩を用ひた高度に言語論理的な、存在論の詩行となる筈です。しかし、この詩人の自負は、今はそこにはなく、現実と虚構の間の交差点に自らの体を張つて時間の中に立ち続けることであるからには、詩人は現実の白昼にあつても闇夜の中に立つ赤いカラスなのであり、同時に並行して、黒い昼間に赤いカラスとして現実の時間の中を厳しく快活に生きるために、自らを人間の姿に変形させて「漆黒のメッセンジャーバッグに赤いカラスを忍ばせておくようにでもしないと、往来を自由に歩くことすらままならない。」といふ事なのである（詩誌『tab』第３６号所収『副都心パラドックス』より）。

これは、既に此の詩集に自らいふやうに「戯曲風の台詞の如き相貌を持った」ものになつてゐるといふ自覚がある以上、「対位法」を使つて戯曲を書くことができる才能が詩人にはある。この詩人にとつて戯曲は詩の一種であり（言葉）、舞台もまた詩の一種なのである（体）。時代的であることとと反時代的であることの二項対立を超越した奇貨と超獣、偶然と必然が別の言葉で何と呼ばれるものか、その間の領域にどんなバロック的な舞台が立つのか、「少なくともそこでは、持統帝も柿本人麻呂も後水尾帝も、バッハもブラームスもチェット・ベイカーもデヴィッド・ギルモアも、等伯も宗達も蕪村も大観も、さらにはゴーギャンもピカソもブラックもクリストも、現存作家の篠田桃紅や草間彌生でさえも、全て等価である。」これらは皆「無能な敗残者たち」である。このtopologicalなバロックの舞台劇に次回もまた期待したい。一層に、ご精進ご精進。

＊＊＊

身代の移転もしくは奇貨の認定を巡るエスキス

（秋川久紫新詩集より）

秋川久紫

《譲与ー其の壱》
赫い矢は時に相互的に、時に目的物を代えながら、永続的に放たれ続けるのだ。

【受領割当等の僥倖不算入】
一頭の黄龍が他の黄龍と懇ろになり、いつしか睦み合うことにより受領する割り当てについては、枯れ枝の咲く寺院を染め上げる熱量の多寡に応じて、その全部もしくは一部につき、当該黄龍の書簡に添えられる花弁の構成上、僥倖に算入しない。

《譲与ー其の弐》
譲与に音があるとすれば、どんな音なのだろう。それは、劣情を秘めた冬の雷鳴の如き激烈さを伴ったものなのだろうか。それとも、覚醒の兆しを見せる若葉のそよぎの如く、柔らかで初々しい響きを含んだものとして立ち現れるのだろうか。

【喜捨銭の要脚不算入】
わたし、ずっとあなたに喜捨していたということなのね。恐らく、精一杯。あなたはわたしが何らかの対価を受けていたはずだとでも考えているのでしょうけど、あなたが差し出したものは、どれも風雨に穿たれると原型を失ってしまうほど脆弱なものばかり。わたしには、林檎一個ほどの重みすら感じられなかったわ。結局、わたしたちの等価交換は成立しなかったということ。そして、呼応する収穫なり、僥倖なりが見つけられないような喜捨の営為は、壁に残された悪戯書き程度の意味しか持たないから、わたしが苦心して造営しようとしていた伽藍の要脚にすら入れてもらえないのね。

《譲与ー其の参》
申言書ってさぁ、つまるところ形式に過ぎない訳だよ。だから、そこには花押みたいな厳密な固有性とか、個の同一性なんて求められていないし、小学生が作った芋判だってオーケーなくらいだから、別にドロンの真似事なんかしなくとも、それらしく仮装して作っちまえば、いくらでも徴租奉行所の胃袋に見せ掛けのしおらしさを投げ入れられるんだよ。この機会に暴露しちまうと、譲与税の申言の大半はなりすまし。白孔雀の預り知らぬ所でなされる赫獅子のワンマンショーなのさ。

【認定奇貨】
赫獅子ハ、ジョガイシタ黄龍ノウリアゲヲ、白孔雀メイギノコジンコウザニソウキンシテイマシタ。コクゼイトウキョクトシテハ、黄龍ヨリ赫獅子ニタイシテ奇貨ガシハラワレタ

モノト認定シ、サラニ赫獅子カラ白孔雀ニタイシテ譲与ガナサレタモノト認定シマス。

《譲与ー其の肆》
譲与の本質は等価交換に基づく価値観や生活様式の破壊である。あるいは、その意志や衝動に対する共感を起因とする反射的・呼応的な連鎖である。赫獅子はいつでも白孔雀となり、白孔雀はいつでも赫獅子となり得るが、そこには常にそうした反射や呼応が等価交換に収斂していくことを拒む力学が存在する。その力学の作用によって、計量・計画を通じて図られる均衡の感覚は忌むべきものとして注意深く排除されることになる。ゆえに、譲与を売買の如き営利取引に擬制したり、契約・経済行為の一形式として捉えたりしてはならない。

【交誼銭の要脚不算入】
一頭の黄龍が他の黄龍と交誼の杯を上げ、夜櫻の下、溢れるエクスタシーを浴びて奏でられる音曲の熱源については、軍議に集う知恵者の多寡に応じて、その全部もしくは一部につき、当該黄龍が直轄する城塞群の計量上、要脚に算入しない。

《譲与ー其の伍》
衆法第五四九条に規定されている通り、譲与は赫獅子が自身の所有する身代の無償移転を行う旨の意志を示した申し込みに対して、白孔雀がこれを受諾する意志を示すこと、即ち、身代の無償移転の計画に関して、赫獅子・白孔雀の双方が自由意志によってこれを是認し、その実現に向けて協力する旨の判断を行うことによって成立する。従って、そこには赫獅子・白孔雀双方の完全なる意志能力・責任能力が存在し、それらのいずれもが当該無償移転の計画につき、これを強制されることがないこと、さらに譲与を行った結果、赫獅子の身代が減少し、白孔雀の身代が増加すること、承継税法第一条の四の規定により、白孔雀に譲与税の申言義務が生じる可能性があることを認識している必要がある。しかしながら、実際には①赫獅子の意志能力・責任能力が不完全もしくは欠落した状態のまま、何らかの枉惑行為を媒介することによりなされるもの、②白孔雀の意志能力・責任能力が不完全もしくは欠落した状態のまま、何らかの枉惑行為を媒介することによりなされるもの、③白孔雀に意志能力・責任能力は存在するものの、赫獅子及びその係累等の関係者が何らかの枉惑の手段によって一方的に譲与契約書の作成や譲与税の申言書の提出などを行うことにより、譲与行為の存在を仮装しており、白孔雀が譲与がなされた旨の事実自体を知らされていない場合などが散見される。

安部公房スタジオ・第５回スタジオ公演（二月一七日～二六日）

ダム・ウェイター

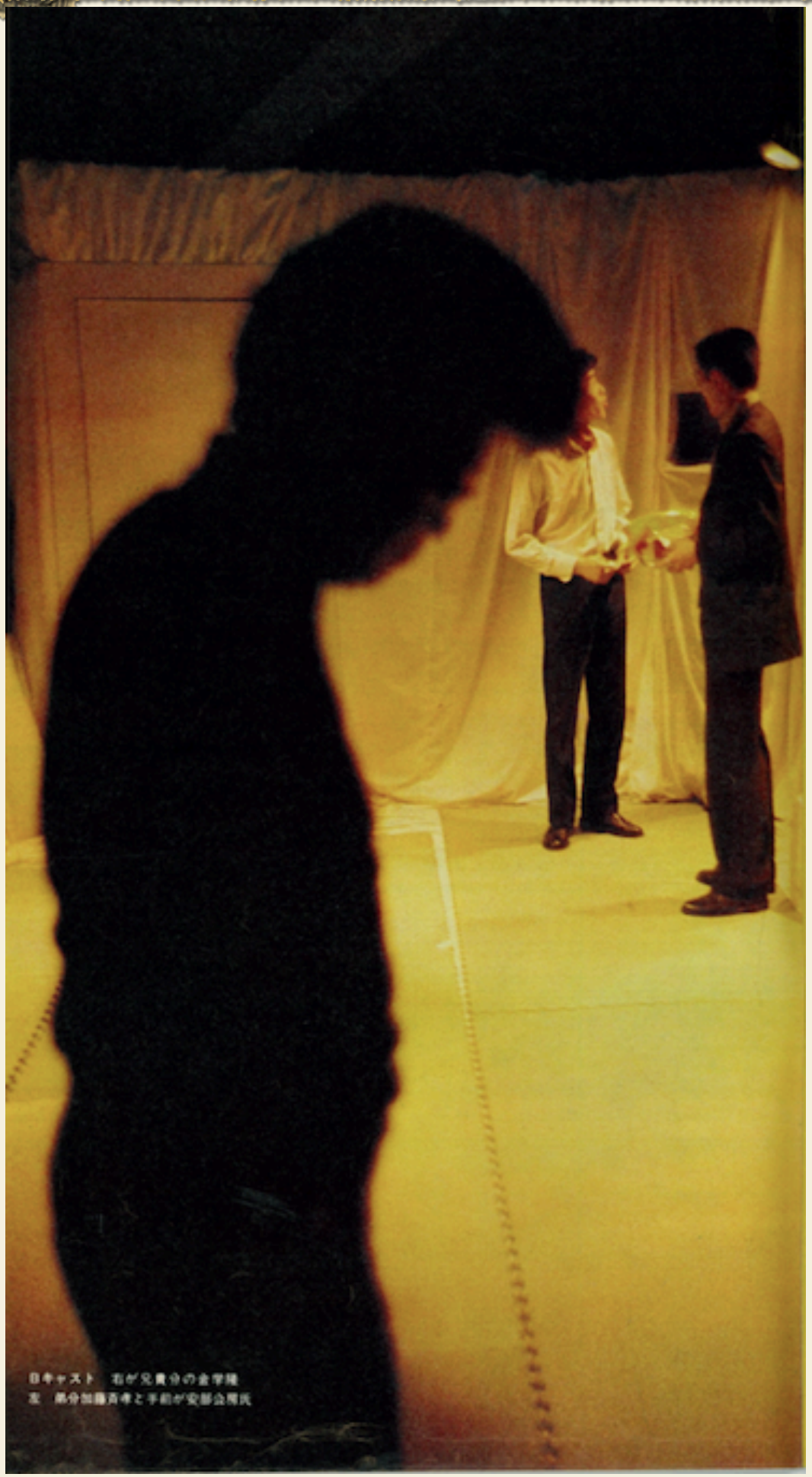
作/ハロルド・ピンター、訳・演出/安部公房

『アサヒグラフ』昭和５３年３月１０日号



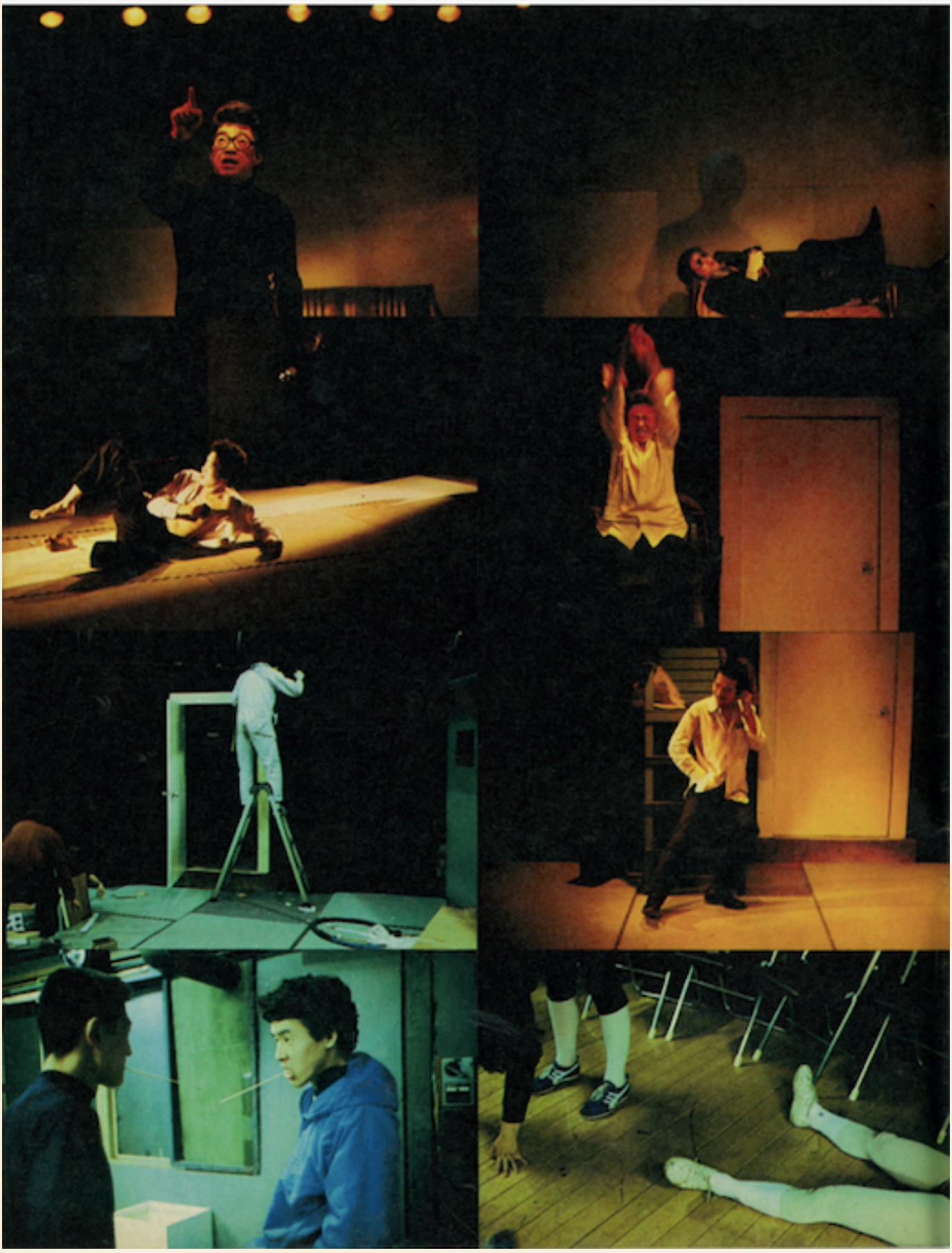
撮影／出版写真部・大北寛

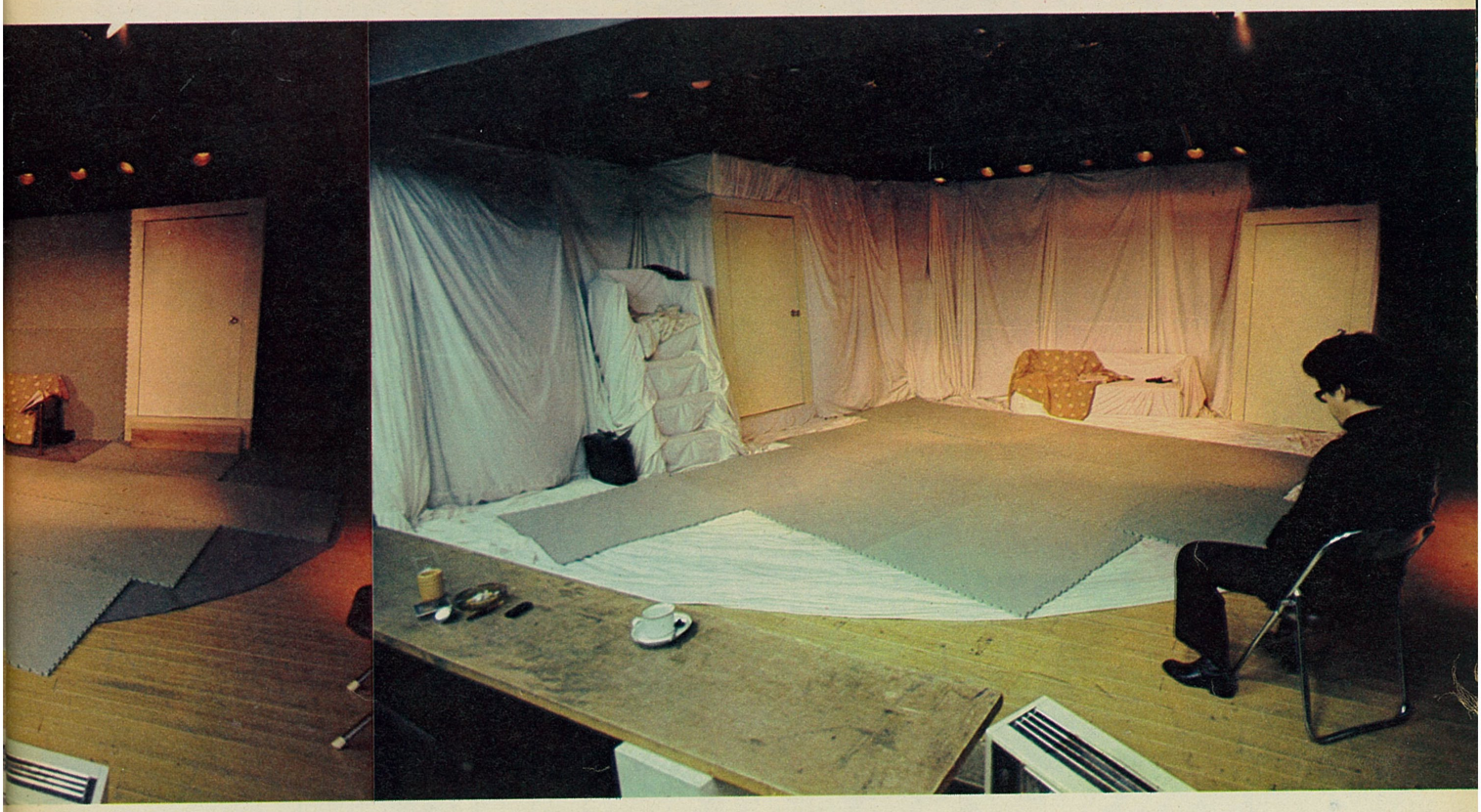
ダム・ウェイター　Aキャスト　左が兄貴分の宮沢譲治　右が弟分沢井正延



Bキャスト　右が兄貴分の金学隆　左　弟分加藤斉孝と手前が安部公房氏


安部公房スタジオの数日間のスナップ
安部公房
スタジオ





けいこを重ねるにつれて舞台装置も右のものから左へと変わってきた

恐ろしい芝居と生身の安部公房

安部公房スタジオの一日は、お昼過ぎ、舞台兼観客席のスタジオの床の上、リーダー格の伊藤裕平の掛け声で十二人のメンバーの体操で始まる。

渋谷のバルコの隣り、特異な形の山手教会の地下である。この体操は安部システム独特の、合気道やヨガの修業に似た激しいもので、これがたっぷり一時間続く、そして一時間の発声練習、次いで二時過ぎに安部さんが登場して、本格的なけいこが始まる。

その間、廊下を隔てた事務室では会員からの問い合わせ、予約の電話がひっきりなしにかかってくる。

今回のダム・ウェイターは第三回スタジオ公演で初演されたもので、自作戯曲以外は手がけない安部さんとしては唯一の他人の作品である。

登場人物は二人の男、舞台は地下室とおぼしき一室で、二つのドアが外界に通じている。ソファー一つに背の高い肘かけイス。兄貴分とおぼしき男と弟分とおぼしき男の二人は、何かをひたすら待っている。

新聞を読み散らしながら、「ええ、冗談じゃねえ」が口ぐせになってしまった兄貴分、置かれた状況について、ひたすら質問をくり返す弟分とのイライラした会話の進行で、彼らが殺し屋であり、その部屋にやがて来る被害者を待っているらしい、ということがわかってくる。

タンクが空になったトイレの水洗の音、ドアのスキ間から差し入れられた封筒入りのマッチの軸、一見日常的に変哲もない事柄が、二人をとりまく空間にとって、かなり暴力的相貌を帯びてくる。

そしてそのような情景に決定的にやってくるのが、壁に開いた四角い穴と、そこにゴトゴトという音と共に降りてくる、ダム・ウェイター、中華料理屋などで客席と調理場の間を上下する、あの料理運搬用のエレベーターなのだ。

喜志哲雄氏の訳（新潮社刊）ではダム・ウェイターを「料理昇降機」としているが、安部さんはここで、あえてダム・ウェイターとしている。

「この題名からまっさきに連想するのは、イギリス人なら「唖の給仕」、アメリカ人なら「馬鹿な給仕」といったところで、劇の進行につれて、そう言えば例のリフトのこともダム・ウェイターだったっけ、と思いつき、さらに劇が終わってから、ウェイターがただの給仕ではなく、その本来の意味である「待つ人」かもしれないことに思い当るという込み入った仕掛けなのだ。もともと霧の夜道に迷い込んだような題名なのだから、「もの言わぬ給仕」だとか、「無言の待ち人」だとか、変にしゃれてみるよりは、ダム・ウェイターのままの方がまだましだろう。

「恐ろしい芝居である」

と安部さんは語っている。

この戯曲のヤマは、この馬鹿な機械が、一個の圧倒的な人格となって二人の殺し屋と覚しき人間を支配し始めてからなのだ。その上、外界との関係において、兄貴分と弟分の力関係が逆転し、またその関係がルーレットのようにくるくると変わってゆくのである。

安部さんは、

「若い俳優の勉強にと思って、ダブルキャストにしただけで、特に他の意味はない。とにかくむずかしい芝居です。特に弟分の役は――」と語っている。

四十八年の初演当時弟分を演じた宮沢譲治が今回は兄貴分を演じているが、A・B両キャス

室内装飾の決定版!

光学繊維の装飾スタンド

光のファンタジア

達の玄関、居間、勉強部屋や
も、ホテル、レストラン、
店など最適です。是非お試しください。

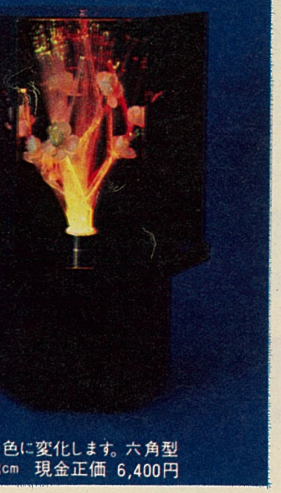


ます。箱型
0.5cm　現金正価　5,000円



品番200
ファイバーも回転、七色に変化します。丸型
50×40×40cm　現金正価　5,400円

間無料でお試しください。



色に変化します。六角型
cm　現金正価　6,400円

華麗な輝きを……

スイッチを入れると七色の光がアクリルファイバーの先端で輝き、その幻想的色彩は刻々と変化します。真夏の夜の花火の豪華さをご想像ください。これは光を伝達する光学ファイバーの原理を応用したものです。

申し込み・ご注文はハガキで!

社で負担いたします。
着後、約2週間前後で商品がお手元に届

後、7日間は返品自由です。但し返送料は
ださい。現品受領後直ちにご返金します。
0/60Hz全国共用です。12W
ドは光の加減が大事ですから、薄暗い所
です。
文希望の方は、別途ご相談に応じます

のご注文は直接現金書留でどうぞ

●ハガキでのお申し込みは……

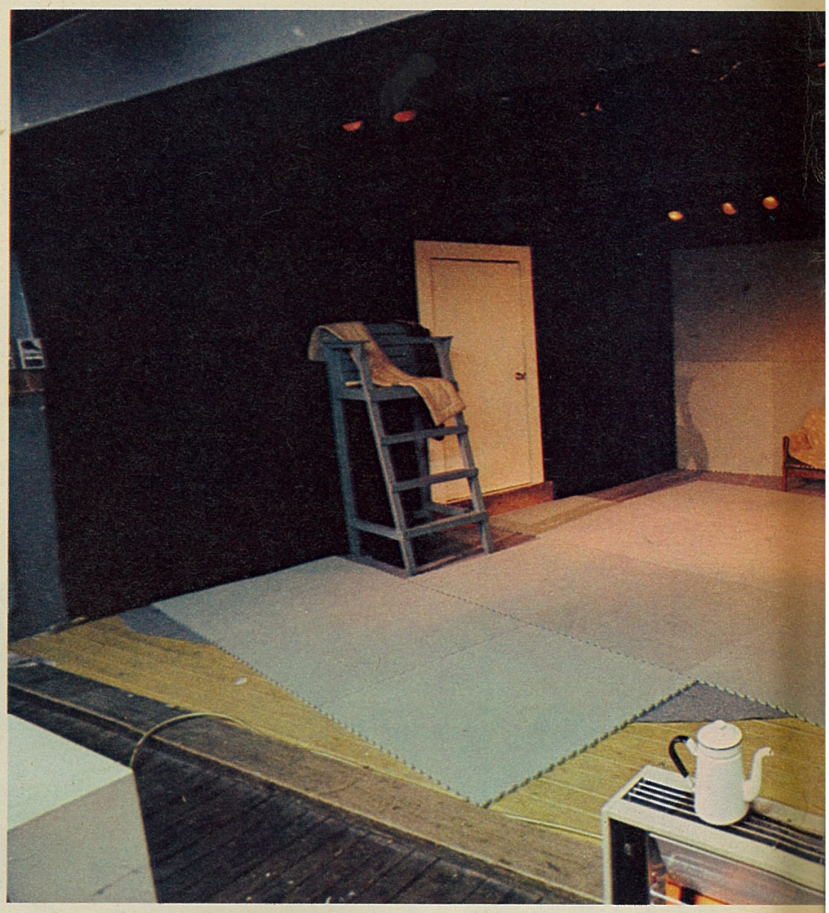
20円
〒107-□□
東京都港区赤坂4の13の5
赤坂オフィスハイツ一三七号
サンインペックス㈱
アサヒグラフ係

●品番　●数量
（合計金額）
●支払方法
A.現金書留　B.代引郵便
●住所
●お名前(フリガナ)　印
●電話番号
（自宅・勤務先）

※但しBは、代金引換郵便料600円がそれぞれ加算されます。

会賛助会員
ンペックス株式会社
アサヒグラフ係

〒107　東京都港区赤坂4-13-5
赤坂オフィスハイツ137号
☎03(586)2546・(582)7211



トを観ることによって、俳優の個性と役の関わりがますます際立ってくるような興味深い戯曲なのである。

安部さんもその辺は楽しんでいて、キャストによって身振りを違えて演出しているというふうだった。一個の空間としての役者の肉体が、安部公房スタジオの空間の中で、様々なシチュエーションを創り出し、次々と連続した状況に発展させてゆく面白さ。それは安部さんの小説の持つ、すき透っていてきらめくような文体の生み出すイメージの展開にも似た面白さなのだ。

それを抜きにしても、安部公房スタジオという場は、なんとなく親しみに満ちた場所だ。

いわば神様みたいな存在になってしまいそうな、作家安部公房が、冷たい活字の上でなく、若い役者仲間と共に手づくりの味で彼の生身の世界を見せてくれる、そういうような空間になっているのである。

「観客は年配者もいるけど、若い人がとても多いんですよ」と安部さんは楽しそうなのである。

「ええた。今会員は四千四百と三十九人です」今回制作を担当した伊藤裕平が胸を張って言った。

（二代目）

左の舞台装置の全景



『アサヒグラフ』の表紙と目次



アサヒグラフ 3·10 もくじ

本誌掲載の写真・記事は無断転載を禁じます ©朝日新聞社1978

■カラー □モノクローム

■'78アルペンスキー世界選手権速報／ワールドカップ後半戦ハイライト……3
□表紙の顔／島村俊廣 65歳にして初めてのビッグタイトル……16
□再建の道 険し 総額1300億円の負債かかえて永大産業倒産……19
□ナンチャッテおじさん いまどこに……22
□連載随筆・落語のふるさと ⑩てれすこ……26
■連載・グラフ博物館・ルアー釣りの魚 ⑩レイク・トラウト……31
■スリル満点 ツルツルの氷上を突っ走る 北海道・塘路湖で車の"運動会"……32
■連載・現代の浮世絵—イラストレーションの魔力 〈10〉大橋歩／クレバスの疾走……41
■連載・カタログ風俗往来／健康器具花盛り……46
■いつ甦えるアユと清流 伊豆・狩野川のヘドロ汚染その後……50
□連載随筆・パイプのけむり／裏目く1〉……57
□グラフ・アイ'78／67万5千台が置きっ放し……58
□連載・にっぽんユートピア ❷奥農弥……62
■「ダム・ウェイター」 安部公房スタジオ第5回スタジオ公演……76
■わが家の夕めし／山田太……82

表紙／島村俊廣
写真 （表紙）内田 （82）水村各出版写真部員
カット・地図 大川一夫 KK広研



⬆第25回アルペンスキー世界選手権大会は西ドイツのガルミッシュ・パルテンキルヘンで開かれた（3ページ）

⬇かよわき庶民の守護神ナンチャッテおじさん 深夜放送で取りあげ騒ぎが広まった（22ページ）



⬇安部公房スタジオ 第5回スタジオ公演「ダム・ウェイター」の舞台（76ページ）





⬅永大産業が倒産 建築中のプレハブ住宅に立ち入り禁止の貼り紙がされた（19ページ）



⬅北海道釧路市郊外の塘路湖で開かれた氷上トライアル（32ページ）

えんぴつめも

蒸師洋行、三十一歳、体重八二キロ、カメラマン、身長一八九センチ、"のこの精悍な若者が、ワールドカップ・スキーの取材手帳を始めてから今年で十年目。高校までを地元で過ごし、弾丸のようにスキーの魅了され、滑降競技の選手にくらいつくこの仕事にのめりこんでいきました。

「いい写真を撮るにはまずポジションが肝心」と試合当日の朝早く、コースの雪のコンディションと地形とを十分に調査して、自分のポジションをきめるのだそうです。

「タイムは百分の一秒までとるのですが、今年の世界選手権では男子の滑降競技で史上初の同タイムが出ました。千分の六秒差という僅差でしたが、二人の選手の間に

十センのちがいがあったかどうか」とは試合のこぼれ話。

ところでいまはやりの「ナンチャッテおじさん」の記事を読んで、この精悍な若者が、沖縄の「ハイサイおじさん」のことを思い出したのは、ワールドカップから今年で十年目で、高校までを地元で過ごし、弾丸のようにスキーの魅了され、滑降競技の選手にくらいつくこの仕事にのめりこんでいきました。

「いい写真を撮るにはまずポジションが肝心」と試合当日の朝早く、コースの雪のコンディションと地形とを十分に調査して、自分のポジションをきめるのだそうです。

「タイムは百分の一秒までとるのですが、今年の世界選手権では男子の滑降競技で史上初の同タイムが出ました。千分の六秒差という僅差でしたが、二人の選手の間に

（訂正）2月24日号「スキー場50を空から訪ねれば」の記事中、26ページ原赤面山スキー場と断崖の甲子高場の写真説明が入れ違っていました。お詫びして訂正します。

リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
（４７）
第２部 XXII
～安部公房をより深く理解するために～

岩田英哉

XXII

O TROTZ Schicksal: die herrlichen Überflüsse
unseres Daseins, in Parken übergeschäumt, —
oder als steinerne Männer neben die Schlüsse
hoher Portale, unter Balkone gebäumt!

O die eherne Glocke, die ihre Keule
täglich wider den stumpfen Alltag hebt.
Oder die eine, in Karnak, die Säule, die Säule,
die fast ewige Tempel überlebt.

Heute stürzen die Überschüsse, dieselben,
nur noch als Eile vorbei, aus dem waagrechten gelben
Tag in die blendend mit Licht übertriebene Nacht.

Aber das Rasen zergeht und läßt keine Spuren.
Kurven des Flugs durch die Luft und die, die sie fuhren,
keine vielleicht ist umsonst. Doch nur wie gedacht.

【散文訳】

おお、運命にもかかわらず、あちこちの公園の中に泡だって溢れている、
わたしたちが今ここにこうしていることの素晴らしい過剰—
または、バルコニーの下に樹木のように立っている高い玄関、入り口の
上の方で収斂している場所の隣にある石の男たちとして！

ああ、青銅の鐘、その鐘舌を毎日、鈍い日常に抗して掲げる鐘よ。
或いは、カルナックにある鐘、柱、柱、
ほとんど永遠の寺院を超えて生き延びる柱よ。

今日、過剰が、墜落し、落ちてくる。剰余が、
かろうじて急ぐものとして通り過ぎ水平の黄色い日の中から出て
目も眩む、光によって誇張された夜の中へと入る過剰が。

しかし、荒れ狂うことは、消え失せ、そして何の痕跡も残さない。
飛行機が空気中を飛ぶ曲線、そして、曲線が走ったその当の空気、
どの痕跡も、ひょっとしたら無駄ではないのだ。しかし、ただそう思っただけの限りで、そうなのだ。

【解釈と鑑賞】

前のソネットで、到達し得ない純粋の空間の存在を思ったリルケは、翻って、わたしたちの日常を思い、そこにある、わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である垂直性を思い、歌ったのだと思います。

第1連では、リルケは、「わたしたちが今ここにこうしていること」が過剰だといっている。そうして、その過剰は運命に抗して、垂直に立っている。その樹木のように垂直に立っている石の男の像たちのように。

そしてその過剰は、公園の中にもあると第一行ではそもそも歌っている。これは何を言っているのだろうか。公園にはひとが閑暇を求めて集まる。その様子は確かに高いところからみると泡立っているように見えるだろう。その泡立ち方が過剰だといっているのだ。しかし、その姿ばかりではなく、ひとが垂直に立つのは、そのような閑暇を求める場所であると言っているのだと思います。それはあとで出てくる第4連では、急いでは痕跡を残さないから、急いではならないと歌い、急いでいる場合の過剰のありかたを第3連と第4連を通じて批判していることを見るとわかります。

さて、第2連、第3連をみると、この過剰が垂直方向に立っている。垂直に伸びてゆく意志がそこにある。そういう人間の造形したもの名前として、リルケは、柱を挙げる。悲歌7番の第7連でも、そのような人間の文明の偉業として柱が挙げられている。垂直に立つことは、人間の素晴らしい偉業なのだ。それゆえ、「素晴らしい過剰」と第1連の冒頭で歌われている。

この場合の「素晴らしい」という言葉は、ドイツ語では、herrlich、ヘルリッヒであり、既に第2部ソネットVIIIでも説明をしましたが、これは名詞、Herr、主人、支配者、神という意味の言葉からできた形容詞で、従い主人であることの性質、支配者であることの

性質、神であることの性質を意味しています。素晴らしいという訳語がもし誤解を与えるのであれば、荘厳なと、場合によっては訳することができる言葉です。

確かに、柱という人間の文明の偉業を褒め称えるときのリルケの感情には、荘厳なものがあるのだと思います。

そうして、運命に抗して同じ垂直の姿をもつものとして、第2連で鐘を挙げています。鐘も、鐘の音もまた、鈍い日常に抗して垂直に立つものなのです。そもそも鐘楼が垂直の建物でありましょう。

この第1連、第2連ときて、リルケは垂直なるものと、herrlich、ヘルリッヒ、素晴らしい、荘厳なものを思うときには、いつも軌跡、痕跡、跡を連想するのです。それは、対象そのものではなく、対象の動いた跡のことです。

この対象を歌わず、その、言ってみれば陰や影や痕跡を歌うというリルケの思考と感覚は、第2部ソネットIIの第3連にも明確に歌われていて、そこでは暖炉に燃える火、炎を見て、生の眼差し、生の視線を忘れろと歌われておりました。また、第1部ソネットVIIIの子供の投げるボールの軌跡。それから、第1部ソネットIVの矢の軌跡を思い出すことにしましょう。

そのように、第4連では、飛行機の飛行の痕跡が歌われております。飛行機がリルケの注意を惹き、詩の主題となるのは、痕跡を残すからだということがわかります。同じ理由で、第1部ソネットXXIIの第3連では、飛行機の速度ということから、その言わば悪しき面が、歌われていました。また、続く同じ部のソネットXXIIIでは、飛行の獲得する、空間の果ての孤独ということから、言わばその良き面が歌われておりました。

さて、第4連では、第2部ソネットXXIIIと同様に、急ぐなということが歌われている。急いでは、駄目なのです。それは実を結ばない。そうではなく、逆に潰えてしまう。リルケは、現代文明がわたしたちに与えてくれる利便性とは逆のことを言っております。飛行機のように速度の速いものでも、それがよいのは、痕跡を残すからだ。

それでも、第3連の脈絡で、この第4連では、飛行機の軌跡も何か力の弱いもののように歌われている。それが最後の一行です。それは、

どの痕跡も、ひょっとしたら無駄ではないのだ。しかし、ただそう思っただけの限りで、そうなのだ。

と歌われている。

何故第4連がこのように弱くなったかというと、第1連、第2連で歌ってきたわたしたちの「わたしたちが今ここにこうしていること」の過剰が、第3連にあるように、やはり崩れ落ちる日があるからです。それは、ここに歌われているように、やはり急ぐからです。急いでしまうと、水平の鈍い黄色い色の日常の中から抜け出て、垂直方向へと伸びても、その機会は、夜の都会の摩天楼の、まぶしいばかりのイルミネーションで明るい、誇張された垂直の夜でしかないからです。これは、リルケの都会批判、現代文明批判でもあります。折角のわたしたちの過剰が、これはわたしたちの富なのですが、それが浪費され、消費されてしまい、決して垂直に成長し、または建造されないのです。

このリルケのいう過剰の豊かさについては、例えば、第1部ソネットXIVの第4連に、

Sind sie die Herrn, die bei den Wurzeln schlafen,
und gönnen uns aus ihren Überflüssen
dies Zwischending aus stummer Kraft und Küssen?

【散文訳】

死者たちというのは、根のところで眠っている男たち（または、主人たちと訳せる）なのだろうか、そうして、わたしたちに、その剰余（過剰）の中から、物言わぬ力と、数々の接吻から生まれたこの中間物（果実）を恵んでくれるのだろうか？

とありました。

また、飛行機の飛ぶ空気、Luft、ルフトとは、リルケの世界では、Hauch、ハオホ、そっと吐く息、Raum、ラウム、空間と同義であることもあらためて銘記することにしましょう。

垂直に立つわたしたちの姿を否定する運命については、様々な主題とともに、第2部ソネットXIVの第1連、第2部ソネットXIXの第3連、第2部ソネットXXの第2連、第2部ソネットXIVの第2連、第2部ソネットXXVIIの第2連と歌われております。こうしてみると、第2部は、運命ということが相当言われている篇だということになります。そうして、それに対抗する人間の姿、オルフェウスの姿が歌われていると考えることができると思います。

【安部公房の読者のためのコメント】

この詩を読むと、『S・カルマ氏の犯罪』の結末の壁が一体何を意味してゐるかがお解りでせう。あの垂直方向の果てしなく成長する壁の説明書きが、この詩であるといつても

良い位です。

「わたしたちの日常を思い、そこにある、わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である垂直性を思い、歌った」、即ち、

立つてゐる事、急がずに立つてゐる事は、「わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である」。さう、確かにそれまでは逃亡し続けてゐたS・カルマ氏は話の最後の最後で、垂直に立ち、「わたしたちの日常を思い、そこにある、わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である垂直性を」歌ふ、存在の動態的な記念碑となつた。「記念碑を建てようとすることはそれ自身君を殺した理由につながるのかも知れぬが……」

このリルケの『オルフェウスへのソネット』との関係で『S・カルマ氏の犯罪』の結末の壁を解釈すれば、日常性の中で名前を失つた主人公が最後には世界の果てに到達して、「わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である垂直性」になつたといふ意味になります。

さうすると、「亡き友金山時夫に」と題した処女作『終りし道の標べに』のエピグラフの意味は、誰にも記憶されず、周年紀を祝はれることのない記念碑ならぬ記念碑としての記念碑が、話の最後の壁だといふことになる。この壁は★印の柵を超えた向かふにありますので、「そうしつように故郷を拒んだ」ことにはもはやならず、何故ならこの垂直性こそが安部公房と金山時夫の共有したオルフェウス像であるからであり、「僕だけが帰って来たことさえ君は拒む」ことはもはやなく、何故ならもはや壁になつた主人公は★印の柵を超えた向かふにあるからであり、「そんなにも愛されることを拒み客死せねばならなかった君に」、従ひ、主人公はなることはなく、何故なら壁は永遠に垂直方向の成長する存在だからであり、そこは客として旅人として訪れた場所なのではなく、存在そのものとして永遠の離別による主人公の愛の真実性の証明であるからです。壁が記念碑ではないならば、「記念碑を建てようとすることはそれ自身君を殺した理由につながる」ことは、そして、ない。

「終りし道の標べに」立つて出発するといふことは、作者にとつては、リルケと親友金山時夫とS・カルマ氏との関係では、このやうな理解になるでせう。即ち、ここまで考へてきてよくわかることは、

「わたしたちの日常を思い、そこにある、わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である垂直性を思い、歌」ふS・カルマ氏の行為は、社会から見れば、犯罪的行為だといふことである。何故なら普通、「わたしたちの日常を意識して思ふことなく、そこにある、わたしたち人間の過剰、即ちわたしたちの富である垂直性を思ふことはなく、歌ふこともない」生き方をしてゐるのが、普通の人々であるからです。即ち、時間の中で等価交換をしておきながら、そして等価交換によつて余剰を生み出しておきながら、死者

のことを思ふことなく生きてゐる人間たちである、といふことが、S・カルマ氏の社会観察、人間観察である、といふことになります。

例えば、第1部ソネットXIVの第4連に歌ふやうに、

「死者たちというのは、根のところで眠っている男たち（または、主人たちと訳せる）なのだろうか、そうして、わたしたちに、その剰余（過剰）の中から、物言わぬ力と、数々の接吻から生まれたこの中間物（果実）を恵んでくれるのだろうか？」

といふ問ひに答へて見ると、死者を思はずに等価交換を時間の中で日常的に慣習的に行つてゐる者、その典型は商人でありビジネスマンでありますが、このやうな金を稼ぐ人間たちが、自分の成果といふ果実、即ち「中間物」といふ過剰、即ち剰余が、その果実を枝につけた樹木（自分を樹木にたとへたとして其の樹木）の地面の下に死者たちが眠つてゐることを知らないのであれば、即ち垂直性を時間の中で保つことを忘れてゐるのであれば、この富の方向は失はれ、折角の富もまた失はれる。S・カルマ氏の垂直性を保証する砂漠とは、かうしてみると、死であり、流動性の高い動いて止まぬ砂の一粒一粒は死者であるに相違ない。かうしてみれば、砂の女の砂の穴の砂の一粒一粒もまた死者であり、あの穴は死者の棲む穴であり、砂の女は死んだ女であつて、主人公は死体を抱いたに等しいといふことになります。砂の女は、現代の怪談である。

そして、そこから生まれ実るものが「中間物」だといふのであれば、これは此の詩集であるか『ドゥイーノの悲歌』であつたかのどこかで時間を水の流れにたとへていふ時に、時間と時間の隙間を時間の存在しないものとして「中間時間」と呼んでゐるやうに、この場合は空間的に何かと何かの隙間にあるもの、これが成果であり果実だといふ意味になります。余りに出来過ぎたやうに思はれるかも知れませんが、しかし安部公房は此れを我がものとなしたのです。即ち果実は存在の隙間凹に実つてゐる。それは存在の果実である。といふことなのです。

また、対象を歌わず、その、言ってみれば陰や影や痕跡を歌うというリルケの思考と感覚や、第4連で歌はれてゐる飛行機の飛行の痕跡といふ痕跡、即ち凹については、以上の話の成り行きからして、『終りし道の標べに』の冒頭の、粘土塀といふ迷路に主人公の押し付けた手形を思へば、良いでせう。この痕跡といふ存在の窪みについては、諸処既述の通りです。『様々な光を巡って』（全集第１巻２０２ページ）に、この窪みの概念の詳細な説明がなされてゐますので、読者には、どうかこの作品をお読み下さい。安部公房文学への理解が大変に深まる筈です。『詩と詩人（意識と無意識）』と並んで、それほどに重要なエッセイです。ご一読をお薦めします。

Mole Hole Letter

（２１）

二階層戦争論

～時代と世界のための処方箋～



岩田英哉

目次

１。ネット記事：「フェイスブック本社前で１００人がヌード撮影「検閲」に抗議 NY」
２。生殖器露出全裸抗議隊は何に抗議してゐるのか
３。フェイスブックのビジネスモデル
４。フェイスブック世界征服地図
５。ネット・ヘゲモニー
６。二階層戦争論と日本民族の原典の文字を読む
７。フェイスブックによる検閲と表現の自由
８。欧米白人種キリスト教徒の自由と差別を理解するためのマトリクス
９。旧約聖書とネット・ヘゲモニーの関係
１０。日本国憲法はイデオロギーである
１１。イデオロギーといふ閉鎖空間から脱出する方法

附録１：二階層戦争論を考へるための分類
附録２：二階層戦争論を理解するための分類
附録３　２１世紀の多領域統合理論
附録４　共産主義の致命的欠陥

（以下、余白）

１。ネット記事：「フェイスブック本社前で１００人がヌード撮影「検閲」に抗議 NY」

「フェイスブック本社前で１００人がヌード撮影「検閲」に抗議 NY」とふネット記事を読みました。：https://www.cnn.co.jp/style/arts/35137869.html



そして、これが令和元年の６月４日の天安門大虐殺事件の周年紀の直前であること、そしてネットヘゲモニストのフェイスブック（以下「FB」と表記します）に対して起こったことが、誠に意味があると思つた。しかも、こぢつけではなく、平成の終り令和元年早々に、ファシズム反対の抗議集会が今度はアメリカのNYで起きたといふ事もまた、陳腐ではあるものの、ある程度の象徴的な意味が、対比的にあると思ひます。

調べて知ったことは、

１。Zuckerbergがユダヤ人であること（名前がユダヤ人の名前です）。妻がアメリカ系とは云へ支那人であること。
２。場所がNYであること。
３。デモ隊員が皆素つ裸のヌードであること。なんだか２０世紀のフリーセックスという北欧での流行や（１９６０年代後半から７０年代前半）、ミュージカルで世界中で興行を打つたジーザスクライスト・スーパースターや（これもヌードで名を売つた。１９７１年ブロードウエイ初演）、ストリーキングや（素つ裸で路上など公共の空間の中を走る。１９７０年代）、ジョン・レノンとオノ・ヨーコのヌード写真やら（ジョン・レノンの一物は木から一本だけ垂れ下がつたバナナみたいだつた。１９８０年〜８１年）を連想して思ひだす。歴史は、地上でも然り、ネットでも然り、現実と仮想現実の両方の階層で自分自身の再生を繰り返してゐるのではないか？昔のカセットデッキみたいにauto-reversalに。

２。生殖器露出全裸抗議隊は何に抗議してゐるのか

この全裸抗議隊は一体何に対して抗議してゐるかといふと、フィスブックが検閲をFBと関連する傘下のSNSサービスのインスタグラムに対して行つてゐて、裸体の写真の投稿が削除され、アカウントが停止になるまたは削除されることに抗議して此の行動に至つたといふことである。この場合、欧米白人種キリスト教徒にとつての性的行為の自由の問題は、キリスト教といはうか、バチカンのカソリック・キリスト教会といふ宗教組織の教義を否定して、その部分的解除を求める問題であり、そのための運動であつたとい

ふことです。性行為を全面否定して、その否定の範囲の中の一部を肯定的に解除するといふ教会の教義の範囲以上に範囲を拡大しろといふのが、上に列挙した当時１９６０年代に起きた性に関する潮流なのです。これを潮流と、海の潮に譬（たと）へて呼んで良いかどうかさへ憚られる。今思ひ出せば、これは左翼・共産主義者の意識の在り方と結びついてゐます。即ち、『新潮４５』といふ雑誌を巡るLGBT騒動で、騒動を起こした人間たちの主張は、フリーセックスの此の主張と同じで、私的な行為（本来秘すべき行為）を法文化して公共の空間で認めろといふ主張であつたといふ事が今ふりかへると判ります。即ち『哲学の問題１０１』を読んで知つたやうに、左翼・共産主義（マルクス主義の通俗化したイデオロギー）は、依然として性懲りもなく、異なる範疇の混同を意図的にするといふことです［註１］。人間一人のセックスは地球の重さより重い（一定時間単位当たりのセックスの回数と地球の重さの関係を教へてくれ）。セックスに餓ゑてゐるLGBTの前で文学は可能か？（そんな場所に文学などない）LGBT抑圧禁圧の後で詩を書くことは野蛮だ（日本では誰も抑圧も禁圧も弾圧もしてゐないので雅やかに好き勝手に詩を書いてくれ）。このやうに文章を書いてゐても、狂気の沙汰です。どうか、L、G、B、T、ではなく、LGBTと十把一絡げでこれを主張する輩には［註２］、自分の性行為を舞台に上げて、東京は新宿東口のアルタ前の広場に舞台を設定して実演してもらひたい。狂気の沙汰も金次第、まさか、金を取らうといふのではあるまいな？

［註１］
『哲学の問題１０１（８）：寛容』（もぐら通信第９１号）で通俗化したマルクス主義を論じました。

［註２］
『Mole Hole Letter（１２）：LGBTとは何か』（もぐら通信第９１号）をご覧下さい。

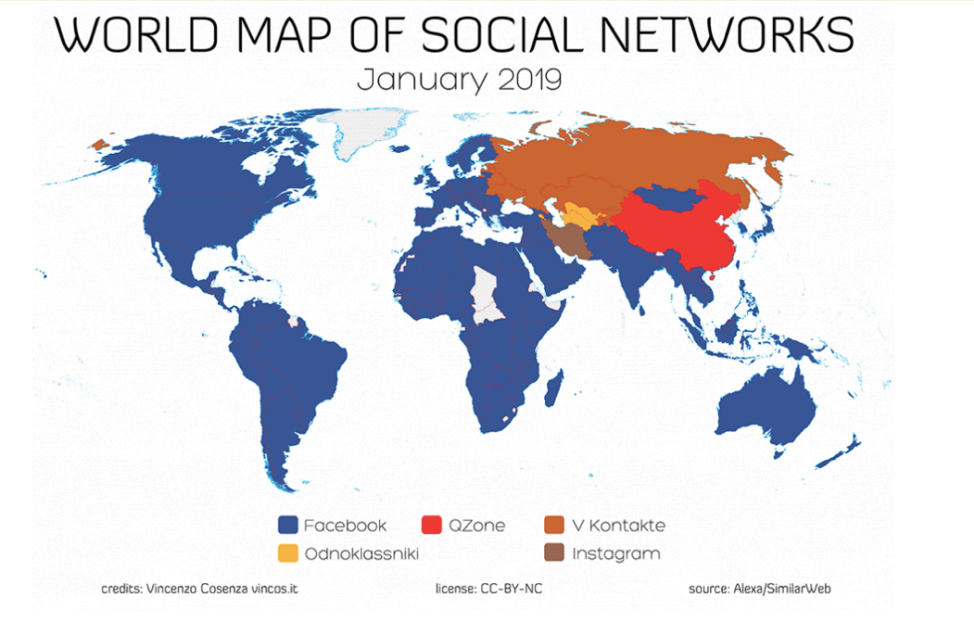
この全裸抗議隊の主催者はNCAC（National Coalition Against Censorship ）：
https://ncac.org

３。フェイスブックのビジネスモデル

それから、この記事を読んで、初めて気づいたが、このFBのビジネスモデルは、ネットビジネスの分類のうちの　マッチングビジネスです。つまり、論理的な仕組みとしては、デートクラブや出会いクラブの仕組みと同じなのです。これをただ単なる場所の提供といふ事に自らのサービスを限定すれば、eBayやヤフオクのやうなオークションサイトになる。つまり地上では貸し会議室や結婚式場のやうなものです。この矩（のり）を超えた事業展開をZuckerbergはしたのです。最初は文字通りの顔写真＋履歴の大学間の新入学生同士の親睦・自己紹介FBであつたわけだらうに。それがいつの間にか取り締まる側の検閲官になつて、FBといふ台帳を、日本でいふなら鬼平犯科帳みたいなものにしてしまつたといふことだ。鬼平は正義の味方で悪を懲らしめる側の台帳だが、ZuckerbergのFB犯科帳は自分が咎人（とがにん）になるといふ、憲法違反の犯罪履歴を誌す犯科帳であるといふことですから、逆をやつてゐるといふことです。

４。フェイスブック世界征服地図

今、フェイスブックが世界中でどの位の地上の国々を自分のネット上の占有地としてゐるかといふことの判る世界地図を掲示します。２０１９年の最新版の地図です。



https://vincos.it/world-map-of-social-networks/

安部公房の大好きなtopoloty（位相幾何学）で考へると、この地図の上に、もう一層、仮想現実のネットワーク地図が被さつてゐるわけです。現実と仮想現実の地図には食ひ違ひ、ズレがあつて、今このズレを巡つて、米中の第三次世界大戦が行はれてゐる。世界は差異（ズレ）である。即ちこの戦争は２０世紀の第二次世界大戦とは違ひ、現実（物理層）と仮想現実（論理層）の二つの層で戦争が行はれてゐる。アメリカは物理層の地図と論理層の地図のズレを一致させようとし、諸国と組んで各国別に同じ地図を作らせて、互ひにネットワーク（これは論理層）で接続しようといふ意志であるのに対して、中国共産党は、論理層のネットワークで地球上をFBと同様に制覇して、それから地上の物理層の現実にある国家を侵略して支配しようとしてゐる、この二つの国家意志の衝突が起きてゐるといふことです。国会意志の実際の衝突とは戦争を意味しますが、このやうな世界情勢に関心のない人になかなか実感がないのは、この戦争が仮想現実の論理層で起きてゐるからです。論理である以上、これは思想戦争であり、前世紀以上にイデオロギー戦争であり、従ひプロパガンダ戦争であり、そのためにも一層通信技術戦争です。中国共産党の絶対支配下にある全体主義ファシズム国家中華人民共和国と、自由と民主主義国家アメリカの間の直接の戦争です。２０世紀の列強国と枢軸国に二分された戦争が再生（reverse）されて、２１世紀には更に複雑に二階層になつてゐるといふことなのです。日本は当然に後者の陣営につくことになる。その備へと覚悟が、あなたにはあるか？といふ事が今問はれてゐるのです。ところで、質問ですが、あなたは一体アメリカといふ国をどの程度、どのやうに、どのやうな国だと知つてゐるのでせうか？これを知らなくて同盟などといふものが組めるものなのでせうか？私の、平凡な問ひに対する平凡な答へは、否。各自ご研究下さい。

5。ネット・ヘゲモニー

さて、上の前者、即ち物理層の地図を見ますと、インスタグラムは FB傘下ですから、ロシアと中華人民共和国と北朝鮮を除き、ほとんど全ての大陸と島嶼（とうしよ）を覆つてゐることが判ります。

FBが検閲を日米で行なつて来た以上恐らくは同様に他の地域でも行つてゐるでせうから、FBの全体主義ファシズムの覇権をネットヘゲモニーと呼び、それを肯定するFBといふ企業をネットヘゲモニストと呼ぶことにします。もし個人でこれを肯定する人間がゐたら、その人間はやはりネットヘゲモニストです。この呼称は組織と個人両方に適用します。しかし、この争ひが、覇権争ひである以上、アメリカもまたネット・ヘゲモニーを中国共産党に対抗して確立しようといふ意志のある以上（これは当然のことです）、アメリカもネットヘゲモニストと呼ぶことになるし、呼ぶ事ができます。地上の政治体制の違ひから生まれた戦争が、ネット上に転移してゐると考へるべきです。これが二階層で同時に戦はれてゐる。２１世紀の戦争は２０世紀の戦争よりも遥かに複雑です。日本の政府と政治家は、日本地図に見合つた領域に（物理層）、安全保障されたネット・ヘゲモニーを（論理層）、国民の生命・財産・安全を保障するために、確立しなければならないといふことです。

6。二階層戦争論と日本民族の原典の文字を読む

私の１５年を超える研究によつて明らかなことは、自国の敵に対して、物理層と論理層の二つを結合して相乗効果を発揮した陣営が勝利するといふことです（これを「二階層戦争論」と呼ぶことにします。）アメリカは官民ともに此れを知つてゐる。古事記と今次世界大戦の関係は稿を改めて論じたい。一体古事記には何が書かれてゐるのか。ユダヤ人やキリスト教徒が旧約聖書の文字を読むのと全く同じやうに、私たちも古事記の文字を読まなければなりません。といふことは、やはり本居宣長に戻るといふことになります。特に「戦後」の私たちは、古事記に限りませんが、日本語の文字を本当に読んだことがあるのでせうか？文明の問題は結局文字の問題に戻るのです。本居宣長の考へたことは、日本一国の特殊な文化の問題ではなく、普遍的な文明の問題であつたといふことになります。［註３］要するに記紀万葉をこの考へ方で読み直すといふことです。

［註３］
文字・数字・記号を刻印することと、文明と文化の関係については、「『カンガルー・ノート』論(2)」(もぐら通信第６７号)の「6。安部公房文学と大地母神崇拝~神話論の視点からみた安部公房文学~」をお読みください。ダウンロードは：https://docdro.id/frd5ltP

閑話休題

一体この恥も外聞もない生殖器露出全裸隊の男女は何を訴へてゐるのかといふ話に戻ります。此の全裸露出隊の抗議行動は、FBが裸体の写真の投稿に対して検閲を行ひ、投稿を削除し、またはアカウントが停止にされまたは削除されることに抗議して此の行動に至つたといふことである。検閲は英語でcensorship、アメリカの法律では、合衆国憲法の第一修正条項（the First Amendment）に規定されてゐる。（https://en.wikipedia.org/wiki/Internet_censorship_in_the_United_States）

７。フェイスブックによる検閲と表現の自由

結論を云へば、検閲とは、演説の自由（freedom of speech）や表現の自由（freedom of expression）に対する権利の侵害であるが故に、違法であるといふものです。それでは、これらの自由に関する演説や表現は何に関するものか、即ち自由とは何かと問へば、その答へは私たち日本人の漠然と思ふやうな自由では全然なく、実に具体的に歴史的にも苛烈な次のやうな自由なのでした。『哲学の問題１０１（７）：自由』（もぐら通信第９０号）から自由を巡つて整理したマトリクスを引用して掲示します。欧米白人種キリスト教徒が自由といふ言葉を口にする場合には、常に此のマトリクスの上と下で自由といふコトが意識され、言葉が発せられ又は表現されないといふことなのです。一言で云へば、キリスト教会の教義（宗教的イデオロギーと言ふべきだと日本人の私には思はれる）を否定して自由を主張してゐるのであつて、その心は、引用すれば次のやうなものです。

８。欧米白人種キリスト教徒の自由と差別の関係を理解するためのマトリクス

「さて、『ある非政治的な人間の観察』の序文で使はれてゐる厚顔無恥といふ意味の自由と、 それとはまた別の、苦しみからの解放/放免といふ意味の自由の話はこれ位にして、しかし以上を下敷きにして、本題に入ります。しかし、上の二例を改めて眺めますと、この自由といふ ヨーロッパ人の言葉の意味は、人間には罪があるといふ考へ、何か悪事をなしたといふことが牢固たる先入観としてあると思はれます。この罰を受けたといふ状態からの解放または無罪放免が自由といふことではないのでせうか。

ですから、ここでも、私たちが思つてゐる自由（といふ明治時代に翻訳された外来語に好き 勝手に思い入れがちな自由）といふ翻訳語とは異質であるといふことを念頭に置いて読み進めます。ここにも一神教のキリスト教の教義が生きてゐるといふことです。さうして、一神教 のtopology（中央集権絶対独裁独占絶対命令型トポロジー）は、私たちとの汎神論的存在論 の高天原toplogyとは、ネットワーク・トポロジー（network topology）が異なつてゐる。

といふことは、次のnetwork topologyを見ても自明の通り［引用者：これらの図は省略］、やはり唯一絶対神が人間を一方的に自由にする(これも命令である)のであつて、人間が自由を主張することは、唯一絶対神との関係では本来悪なのではないだらうか。唯一絶対神が死ぬか（ニーチェのいふやうに）、または不在であつたり其の位が空位であつたりすれば、一体どのやうな規準（criteria: クライテリア：適用範囲の許す限りでの絶対的な基準）で物事を判断することが、ヨーロッパの人間たちは、できるのであらうか。」
（『哲学の問題１０１（７）：自由』（もぐら通信第９０号））

ダウンロードは：https://docdro.id/suZaexp

欧米人（キリスト教徒）はどこで（どのセルで）自由を考へてゐるのか？
(v3)

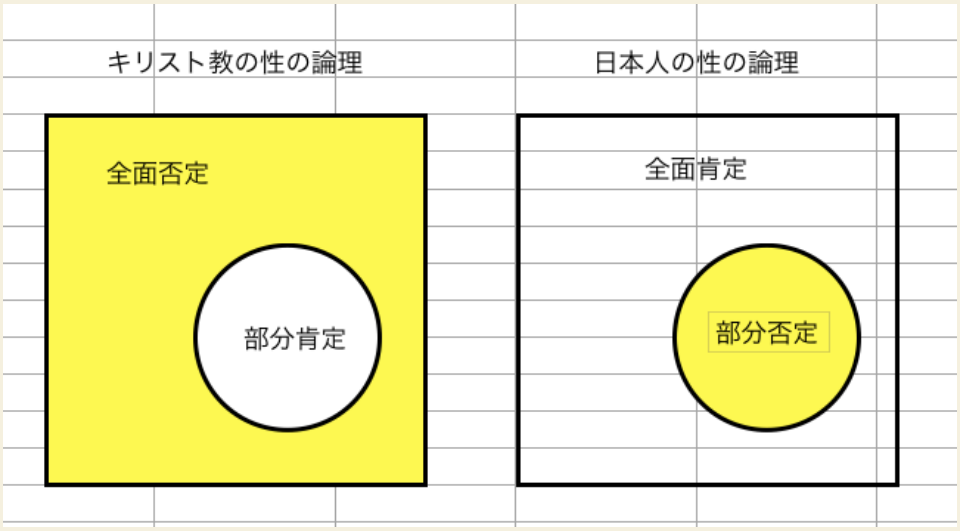
Matrix 1：分類視点：組織と個人

	人種	宗教（一神教）	政治	経済	文化	備考1	備考2
国家						思考、判断、責任、承認、「他の人たちと談話・談論・討議することのできる能力」	マルクス主義は国家を認めない。共産党の支配する社会が人間の組織の最上位概念。この社会以下の階層を絶対支配するのが共産党。
社会							
個人							

Matrix2：分類視点：豊かさと貧しさ

	人種	宗教（一神教）	政治	経済	文化	備考1	備考2
豊かさ						金と食べ物	豊かさと貧しさは、国民の生命と安全保障に関はる問題であるので政治の問題であり、備考1にある金と食べ物といふ視点で同じ問題をみれば経済の問題であり、またかうして政治と経済の問題は、何事にも余剰から生まれる文化の問題である。
貧しさ							

この生殖器露出全裸抗議隊の抗議は何を求めるかといふところに戻ると、これは性に関する表現の自由を検閲によつて禁圧することに対する抗議である。ここでも日本人である私たちが誤解してはいけないことは、自由の問題が上の二つのマトリクスにあるやうに実に多岐複雑である上に（勿論、此のマトリクスを知つてゐれば議論は単純明解になります）、キリスト教会の教義が同じ『哲学の問題１０１（＝）：性交（セックス）』（もぐら通信第９７号）で明らかになつたところによれば、キリスト教会の教義では、性行為を全面的に否定し、それを前提に一部分を条件付きで肯定的に解除するといふ論理であるのに対して、私たち日本民族の古代からの論理は、性行為を全面的に肯定し、それを前提に一部分を条件付きで否定的に禁止するといふ論理である。即ち下図のやうに性の見解の陰陽と肯定否定の在り方が全く逆なのである。



さて、これで解ることは、この全面否定と部分肯定の論理によつて、性を対象として論ずるためには、私たちならば上のマトリックスのうちの文化のカラム（列）だけで考へることができるものを、欧米白人種キリスト教徒は宗教（一神教）と政治と文化で論ずるといふことになつて、ここに、左翼・共産主義、即ちフランクフルト学派がマルクス主義を通俗化してアメリカで広げたポリティカル・コレクトネス他の、範疇の混同といふ方法がいとも楽々と適用されて、人々を混乱させるのである。曰く、人の命は地球より重い。しかし人の命は生命の問題、地球の重さは物理学の問題。ア

フリカのビアフラで餓えてゐる子供の前で文学は有効か？餓えた子供を救ふのは政治の問題、文学は文化の問題。アウシュビッツの後に詩を書くことは野蛮だ？ふざけるんぢやねえ。アウシュビッツでのユダヤ人虐殺は人種（民族を含む）と政治の問題、詩を書くことは文化と文学の問題である。男女は平等であるからには、便所も平等であるべきであり、男は女子便所を使はねばならぬ？だつたら、女は男子便所で立ち小便をするのか？といふ、道徳も羞恥心も何もない実際のアメリカの話になるのである。此れを狂気といはずして何と言はうか。といふことは、彼奴等の狙ひは、人々に道徳心を、即ち羞恥心を失はしめて文化の破壊をすることだといふことが判る。生殖器露出全裸抗議隊のやうになれといふのだ。平成の３０年間はこのやうに道義の廃れた御代であつた。先帝のいふやうには少しも平和ではなかつた（どうぞ不敬罪で逮捕して下さい。庶民は率直でなければ生きて行けない）。

９。旧約聖書とネット・ヘゲモニーの関係

さて、上図の前者、即ちキリスト教会の此の論理は、やはり旧約聖書のアダムとイヴの話に戻るのでありませう。蛇にそそのかされる→知恵の木の実を二人が食べる→知性が宿る→恥を知る→唯一絶対神が怒る→楽園を追放される。といふ論理に徴すれば、此の生殖器露出全裸抗議隊の抗議の意味するものは、生殖器露出全裸抗議隊は恥を知らない→知性が欠如してゐる→知恵の木の実は食べなくてすむ→蛇にそそのかされない→楽園を追放されない。といふ連鎖になつて、要するに、FBは蛇であるといふ主張でもありませう。知性がなければ蛇の毒牙にかかること（騙されること）はない。といふことは、蛇の背後にゐるのはやはり怒れる唯一絶対神でありませう。生殖器露出全裸抗議隊は此の怒りを恐れてゐる。この怒りに対抗し、自らの恐怖心を忘れるために公衆の面前で全裸になるといふことである。誠に愚かなことである。恥を知らないことを恥じる余裕がないのだ。これをソクラテスの故知に倣へば、無恥の恥　といふのである。しかし一体FBといふ蛇の背後にゐるもの、これがGodと呼ばれずに何と呼ばれてゐるものか。成る程、Godの代置されたものがイデオロギーなのである。そしてイデオロギーの教義は終末思想と方舟思想である［註４］。と考へると、このGodはFBと記号化されて、それならLGBTも同じく記号化されて、問題はイデオロギーの問題であるといふことになつて、ここで問題はヘゲモニーの、それも物理層のみならず、論理層でのネット・ヘゲモニーの検閲問題に転移するのです。FBも含むGAFAの検閲問題はかくして此のやうな、目に見えない宗教的な土壌の上にあるネット・ヘゲモニーの、日本国憲法第二十一条（検閲の禁止）違反の検閲違反の問題である。

［註４］
『Mole Hole Letter(19) ：サンチョ・パンサを求めて ~君の中の《君》へ~ （２）Brexitの深い衝撃 』（もぐら通信第１０３号）で論じましたので、ご覧下さい。

とふことなれば、LGBTもイデオロギーであり（物理層）、ネット・ヘゲモニーの検閲の問題（論理層）であるといふことが、ここで明らかになつた。記号化されずとも同様に口の端に上る「弱者」も「少数者」も、イデオロギーです。他には、自由に関係して平等に博愛、さう男女平等に自由に平等、おせんにキャラメル、猫に小判、釈迦に説法、男女に共同参画、多民族に共生、多様性に、フェミにズム、民主主義に、憲法に、憲法第９条に、

Me-Tooに、セクハラ（正しいsexual harrasmentではない）、パワハラ（power harrasmentなどといふ英語はない）、それに何ハラ？、出つ腹、脂肪腹、メタボ腹、腹が出てゐてゐてどこが悪い。これらは、大便の硬軟を問はず大便が大便であるが如く、小便の色の濃淡を問はず小便が小便であるが如く、みなイデオロギーである。しかし憲法までイデオロギーにするとは、これは、我が国は共産主義ファシズム国家ではないか。憲法は所詮人間の作つた国家経営マニュアルである。文章がそもそも間違つてゐたり現実とズレがあれば訂正しなければならない。羊頭を掲げて狗肉を売るとはこのことである。羊頭は日本国憲法、狗肉は日本国民のあなたのことである。勿論あなたは売国奴では全くない。国に売られた奴（ド）である。国は売国奴、あなたは国売奴。この覚醒と自覚が大切。政治でも経済でも実際にあなたの生活はさうなつてゐるではないか。さて、これら現極左政権も含み左翼・右翼の教条主義・共産主義者諸君は皆、山上たつひこの名作『がきデカ』のこまわり君による死刑宣告を潔く受けるがよい。



もつと自分の脳味噌を使つておくれやす。

イデオロギーといふ交通信号機を盲信して右を見左を見て横断歩道を安全に渡らうと云ふ輩は皆死刑である。豆腐の角に頭をぶつけ、犬に食はれて死んでしまふが良い。

唯一の救ひは、かうして見れば、『新潮４５』を廃刊にして日本出版業界史上に名を残した偉大にして無能なるあの社長の経営する新潮社門前で行はれたデモ隊が、NYの生殖器露出全裸抗議隊のやうな露出狂ではなかつたといふことである。

以上を論じ来たりて私の知ることは、実は左翼・共産主義者は、マルクスのいふ下部構造が経済であるなどとは露思つてゐないといふことである。そして/しかも、このことを自覚してゐない。それはやはり文化だと思つてゐるのだ。となれば、唯物論と此の文化下部構造の矛盾を突くと、体系立つた回答はできないだらう。まづマルクス主義者の大好きな自己反省の「総括」は、この一点から始めてもらひたいものである。何しろ１９８９年のベルリンの壁の崩壊と其の後のソヴィエト連邦の崩壊の後でマルクス主義者は誰も何故マルクス主義による政治経済体制が失敗したのかの反省をしてゐないからである。これが相変はらず、何事につけても上から下まで無責任の蔓延を許してゐる原因だと私は思ふものである。そして、これがそのまま道徳の喪失の、鵺のやうな人間たちのゐる此の世の中の現状でもあるのだ。自分たちで総括する意志がないのであれば、マルクス主義裁判法廷を開廷する以外にはないが、果たして日本語で法廷を開いて、これも果たして言葉が通じるものかどうかが問題といふ、病膏肓に入る日本文化の現状が問題である。日本語を日本語に通訳するための日本語通訳には高給を払ひたい。

１０。日本国憲法はイデオロギーである

日本国憲法がイデオロギーであるとは、イデオロギーの正体は終末思想と方舟思想であるからには［註５］、その主張は日本国憲法がなければ日本の国は滅びるといふ主張であ

り、この憲法は選民のための方舟なのであるから、国が滅んだ後も、さあ此の舟に乗ると我が身だけは安全ですよ、と主張してゐるのです。ペーパー・カンパニーといふのがあるが、これでは日本はペーパー・カントリーであり、ペーパー・ドライバーである。国家主権の免許はあるが、一度も国家主権を執行したことのないペーパー・カントリーである。これらのことが、あなたの自分自身の死に対する恐怖心を悪用した、形を変へたマルクス主義であるといふことなのです。勿論この主義（イデオロギー）の支配者はマルクス主義政党の共産党であり（共産主義はキリスト教と同じグローバリズムなので、日本共産党も中国共産党も同じである）、同じ論理即ちその主義を看板にせずに（卑怯にも）姿を隠してイデオロギーによる主張を重ねる鵺の如き（これが私の云ふ）左翼・共産主義者である。「戦後」日常に死を忘れた日本人にとつて左翼・共産主義者が何故鵺のやうであるかの、これが、その理由です。即ち、彼ら日本人による日本国と日本人の否定といふ反日日本人の姿は、自分の死生観を持たない日本人自身の姿である。そこで吾が詠める一首。

この「戦後」　七十余年を　遊びけり　今や我らは　あのキリギリス

あべのきみふさのあの世にて三島由紀夫と語らひつつ二人の対談「二十世紀の文学」を返へりみて詠める。

だからほら　僕は言つたろ　三島君　今や日本は　死に急ぐ　鯨たちだと

三島の大臣（あつそん）由紀夫の答へて詠める。

でも君ね　俺も言つたぜ　この日本　絶対的に　セックスが足りない

本当は二人の歌の前の傍線を引いた一行の文中二つの「姿」の文字の前に「醜い」と入れたかつたところであるが、読者がものを考へるための論理性を失ふといけないので止めた。安部公房に倣つて、ここは形容詞を敢へて排除します。醜い姿として前掲の傍線の文を読んでご覧、今が如何に素晴らしく味はひ深い時代かを知るだらう。今こそ文学が渋くあらねば「戦後」文学どころか日本文学みんな徒花（アダばな）。粋な黒塀見越しの松にアダな姿の洗ひ髪、死んだ筈だよお富さんだけは生きてゐる。２１世紀の春日八郎よ、出でよ。春日八郎の歌ふお富さん：https://www.youtube.com/watch?v=p2sDnxlepRU

［註５］
イデオロギーの正体がキリスト教の終末思想と方舟思想であることは『安部公房と共産主義』（もぐら通信第２９号）および『Mole Hole Letter(19) ：サンチョ・パンサを求めて ~君の中の《君》へ~ (2) ：Brexitの深い衝撃 』（もぐら通信第１０３号）にて解説しましたので、お読みください。

１１。イデオロギーといふ閉鎖空間から脱出する方法

それならば、さあ、日本国民よ、箱を被つて箱男になつて、地獄巡りをしては如何か。さうすると、日本列島の上の日本人は全員疑似家族になつて、敵も味方もなくなり、左翼・共産主義者の恐れる他人との揉め事は雲散霧消し、右翼・共産主義者の恐れる文化と伝統の問題も雲散霧消し、あとは孤独に堪えて一人死ぬことだけは確実だといふ安心した不安の毎日を送ることができるだらうから。

すると、選挙はかうなる。

ある日、選挙の投票日に、箱を被つた選挙民が投票所へゆき、《カンガルー・ノート》と書かれた札の貼つてある投票箱に無記名無名の一票を投ずる。札とは勿論、存在への片道切符であり案内人である。その結果、お笑ひ国会議事堂の議会場に箱を被つた議員たちが座る。箱を被つてゐて誰が誰だか判らないので、箱男議員はNHKのTV放送を意識して質疑に見せ場を作らうなどといふ国民を意識した虚栄心の働く余地はないので、清浄なる国会議事堂の内部である。即ち、国会議事堂もまた箱になり迷路になるのである。

議長も箱男、内閣総理大臣も箱男、大臣も箱男、与党政治家の答弁を補佐する官僚たちも箱男、野党の議員も箱男……。

さて、ここからどんな議会が始まるのかは、あなたのご想像次第。私も思ひ描いて此の後を書いてみましたが、筒井康隆張りの擬似イベント国会になつてしまひ［註６］、「どこからともなく」（超越論的空間）、脛にカイワレ大根を生やした箱男がノロノロとスローモーションで動く自走ベッドに乗つて横たわり二本の点滴用チューブを窓から入れられて腕に刺されて点滴を受けながら、同伴のミニスカートに脚のすらりと長くて綺麗な山口果林似の「トンボメガネの看護婦」のアダな姿のお富さんにピンと立つたペニスをパジャマの上から指で弾かれて「あら、小さいのね」などと言はれながら、論戦中の与野党の国会議員のマイクの前を何しろ悠然と通り抜けるのであるからには、神聖なる国会議事堂をついつい冒瀆してしまふといふ罪の深さに自らの筆を恥じて、以下削除したのであります。ここから先の話は、近頃ネット・地上の世に跳梁跋扈せる検閲（かうして見るとこの原因もまたイデオロギーである）を逃れるために近々地下出版する予定です。さう云へば、さう思つた瞬間にFREE JAPANといふ内国亡命政府を「内なる辺境」に樹立したぞという声が残響の如く世界の果てから聞こえて来たな。今思へばあの声は、こつちのみーずはにーがいぞといふS・カルマ氏の声ならむや。

マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや　［寺山修司］
一寸待て失踪をする其の前に壁になるほどの砂漠はありや　［S・カルマ氏］

［註７］
擬似イベントものの小説には『ベトナム観光公社』『アフリカの爆弾』『農協月へゆく』『東海道戦争』のやうな作品があります。どれも傑作です。擬似イヴェントものとは、安部公房の用語で云ふ仮説設定の文学の一種です。『アフリカの爆弾』を第５９回直木賞選考で落選させた選考委員どもめ、今からでも遅くはない、墓の中で地獄へ堕ちるが良い。

二十一世紀の明智光秀よ出でよ。敵は本能寺にあり。言語論理の本性はrole reversal（役割反転）である。超越論で考へて御覧。昨日の敵は今日の友、今日の味方は明日の敵で、昨日の敵は明日の味方の姿をして今日現れる。昨日の味方は明日の敵の姿をして今日現れる。明日の味方は昨日の敵の姿をして今日現れる。明日の敵は昨日の味方のふりをして今日現れる。敵は本能寺にあり。かく二十一世紀に京都本能寺を眺めれば、まことに自然と（自然の一部である）人間の本能とはrole reversalであり、誰が敵で誰が味方かは一夜にして役割反転する。果たしてこれは時代のせいであらうか。否。安部公房が隣人思想を撲

滅せよと上記の対談で言つた真意はこれだな。隣人思想こそイデオロギーといふ偽善の温床である。敵は本能寺にあり。我が身の内の隣人思想を撲滅せよ。さうしなければ、あなたの身内の敵と味方に翻弄されて人生を終へること必定（この身内は両義である）。してみると、全集全３０巻に徴して、

安部公房の考へてゐてた二十世紀の課題とは、弱者の救済と隣人思想の撲滅である。

なるほど二つともに終末思想と方舟思想の温床である。２０世紀で片付かずに、２１世紀にまで持ち越したといふことである。二階層戦争論を引用すれば、物理層で此の二つの課題の解決が自分の力でならず、論理層でも国の安全保障が自分の力で保障できなければ（この二つの文の物理層と論理層は互ひに等価交換可能である）、二十一世紀に、二つの階層を垂直方向で接続するインターフェイスを外国の手に委ねて錯誤の夢をみたまま、あなた自身と日本の国は二つに分裂して、再度、戦争に敗北することになる。

この解決策は、古事記の冒頭に叙述されてゐる。お疑ひならば『安部公房とチョムスキー（８）』（もぐら通信第８１号）の「7. 一神教と大地母神崇拝をtoplogyで読み解く」をお読み下さい。私たちは古事記といふ書物を、ユダヤ人やキリスト教徒が旧約聖書を読むのと全く同じ読み方で読まなければならないのです。本居宣長の精神即ち求めたるところを求めることです。宣長の求めたるものは日本の文化の特殊性の問題ではなく、これを含む文明普遍の問題であり即ち文字の問題である。

文明開化以来１５０年、私たちのなすべきは「近代の超克」ではなく、あるひは存在しなかつた「近代の超克」をするためには、まづは欧米白人種キリスト教徒とユダヤ教徒に見習つて、民族の最初の書物の原典に写されてゐる文字を情緒的にではなく論理的に読み解く事であり、時代時代の現代との相関を常に新しく考へて、今の時代を読み、来たるべき時代を預言する事であつた。これを放置したがために、左翼・共産主義者はヨーロッパで廃れた前衛の概念を日本の国で蘇生させることができずに一時の流行で終はらせてしまひ（自分一代でお仕舞ひ）、自分を偽り人に偽つて生きる鵺のやうな人間に成り果て（自分さへ良ければ良いといふ考へ）、右翼・保守主義者は、日本の古い伝統と文化の新しさを主張できずに鵺の如き同じ日本人に敗北を重ねて今日に至る（日本の文化と伝統の原理的な説明が日本語で日本人自身、自分自身に対してできないといふこと）。

さて、これをしなければ、やれやれであるが依然として今世紀もイデオロギー戦争は宗教戦争と重複してゐる、といふ現実が日本人は理解できない。彼奴等のいふ宗教（religion）も理解できない。近代ヨーロッパ文明の３００年、超越論を除いては、人間は進歩せずに退歩し劣化して来たのだといふ事も理解できない。世界大戦と称するヨーロッパ域内戦争を一度、世界大戦と称する文字通りの物理層での世界大戦を二度目に、世紀を改めて文字通りの世界大戦を今度は何と二階層で三度目にして、これが人類の進歩でありませうか。人類以外の霊長類がみな臍（へそ）で茶を沸かしてゐる。マントヒヒはヒヒヒと、チンパンジーはチンチンチンと、上野動物園の日本猿はニホンニホンニホンと笑つてゐる。彼奴等は茶を嗜むのである。千利休が猿に茶を教へたといふ歴史認

識は、ない。これ以上は愚痴になるので、これで御仕舞ひ。二十一世紀は『１９８４』に加へて同じ作者の『動物農場』を読むことになるであらう。

深（み）吉野の　桜の雲の　海ゆかば　水漬く屍の　眠る談山　［歴史的精神の欠落した私であるにもかかはらず、私が和歌を詠めば、私は右翼・保守主義者であらうか？］

同じコトを安部公房が散文で書くとかうなる。コトタマのコト、タマシヒのコトである。

「ともかく、どうやら、悲痛な異端の時代はすでに過ぎ去ったらしい。本物の異端は、たぶん、道化の衣装でやってくる。」［歴史的精神の欠落した安部公房が日本語で散文を書けば、安部公房は左翼・共産主義者であらうか？］
（１９６８年８月『ミリタリィ・ルック』全集第２２巻、１２８ページ）

安部公房の言葉がかくも今に通用して新しいのは、高天原の成り立ちと同じ超越論で考へてゐるからである（時間は遅延であり、始まりも終りもない）。右翼・保守主義者の言葉が古くなることがあるとしたら、民族の原典を読まずに、時代を何かにあらかじめ与へられたものとして疑ふことなく、従ひ、隠喩をつかへば時代に右顧左眄して腰が定まらないからである。それが嫌ならば、超越論で考へることである。超越論が理解できなければ、ユダヤ教徒やキリスト教徒と全く同じやうにして古事記のせめて冒頭なりとも辞書を引いて自分の眼を皿にして自前の脳味噌で文字を読むことである。私は過剰に辛辣であらうか？さうは思はないのだ。たとへ私が年とともに辛辣になるやうであるにせよ、それを割り引いても尚。



鵺とは、猿の顔、狸の胴体、虎の手足を持ち、尾は蛇の化け物であるさうな。（https://ja.wikipedia.org/wiki/鵺）



しかし、同じ鵺である化け物の姿を１７世紀の３０年戦争を経験した最中のドイツ人は次のやうに描いた。誤解してはいけない。これが人間の本当の姿です。しかし此の化物人間は超越論で考へた。即ち善悪の二項対立を超越して第三項を求めた。これが「戦後」日本の鵺のやうな化け物と知能に於いて大いに違ふところです。

彼我の違ひは、ここでも一目瞭然。彼の地にては戦乱の世を一冊の書物として鵺も読んだのに対して、我が地にては左右の鵺のごとき者たちは同じ世を一冊の書物として読むといふ訓練がなかつた。江戸時代の藩校も寺子屋の文化も伝統もいつの間にか消え失せたのである。三島由紀夫が時代を一冊の書物として読んでもらひたいと密かに願つた『鏡子の家』を見捨て、この天才をあの死に追ひやつた読者の罪が、これである。この作家の死の年に開催した『四つの河』の主題の一つが「書物の河」であり（これは単に本をたくさん書いた

といふやうなことではない）、「行動の河」であることの意味はやはり深いのです。時代を超えて１７世紀のバロックの哲学者デカルトが文字通りスコラ哲学の書物を読み終はり、行動に移つて軍務に進んで服して当時の３０年戦争の軍旅についた目的が「世間といふ書物を読む」と『方法叙説』に書いてあるのは、彼の地の古代ギリシャ時代からの「世間といふ書物を読む」習ひです（プラトンの著作に此の慣用句あり）。１９世紀のショーペンハウアーといふ超越論者になると、世間が森羅万象となつて「世界といふ書物を読む」と主著に書いてある。さて、本当に、これで御仕舞ひ。各自ご研究下さい。

附録１　　二階層戦争論を考へるための分類

ダウンロードはhttps://docdro.id/3BB4svX

20190612
eiya iwata

二階層戦争論を考へるための分類

論理層	ネット地勢学	国境なし	地勢動態論	中央絶対集権型放射状topology	並行四辺形に禅掛けのtopology	第三項の階層	超越論	汎神論的存在論	通信技術戦争１
物理層	地政学	国境あり	地政静態論	一神教のtopology	大地母神崇拝のtopology	二項対立の階層			通信技術戦争２
				中華人民共和国	日本帝国				

論理層	論理戦争	プロパガンダ戦争１	文明間戦争１	宗教戦争１	イデオロギー戦争１	検閲１	ネット・ヘゲモニー	検閲１	ネット・メディア
物理層	物理戦争	プロパガンダ戦争２	文明間戦争２	宗教戦争２	イデオロギー戦争２	検閲２	ヘゲモニー	検閲２	マス・メディア

論理層	ネット・ヘゲモニスト	GAFA	プラットフォーマー１	ネット・ヘゲモニー論（ネット覇権論）	ネット・モナド論（＊＊）	モナド・メディア論１（＊＊）	ネット政治・ネット経済批評	第二次冷戦（Cold War）１	第二次COCOM１	第三次世界大戦１
物理層	ヘゲモニスト	近代国家	プラットフォーマー２	ヘゲモニー論（覇権論）	社会モナド論（＊）	モナド・メディア論２（＊＊）	政治・経済批評	第二次冷戦（Cold War）２	第二次COCOM２	第三次世界大戦２

論理層	目に見えない戦争（透明な戦争）	存在の戦争	形而上の戦争	（＊）モナドの定義：モナドとは社会を構成する全ての価値の単位である。モナドは大小に、全体と部分に、１か多数かに拘らず全て等価で遍在する。	（＊）社会の定義：社会とは民主主義（政治体制）と資本主義（経済体制）からなる世の中のことである。	（＊＊）ネット・モナド論とモナド・メディア論は、今私の構想してゐるネット・メディア論の中心をなすメディア論の一部です。	
物理層	目に見える戦争	現存在の戦争	形而下の戦争				

横丁のご隠居と熊さん八つあんの蒟蒻問答による註釈：

ご隠居：このマトリクスをつらつら眺めれば、結局、近代国家とは物理層でのプラットフォーマーだつたのぢやな。

熊公：マトリクスつてなあ何です？ご隠居。あつしは無学でわからねえ。要するに、セブン・イレブンつてえコンビニが国家になつたと思へばいいんですかね。

ハ公：なるほど、それで一国一極集中首都を国の真ん中につくつたつてえわけですかね。東京といふ近代都市はプラットフォーム？あの新宿駅や秋葉原駅みたいな。なるほどなあ。つてええと、東京つてえ町は仕出し屋の幕の内弁当みたいな町つてえわけですね。

ご隠居：なるほど、お前さんたち、うまいことをいふねえ、うちの店子は学があり過ぎ。それなら話が早いよ、いいかい？二階層での戦争を一言で云へば、プラットフォーマー戦争だといふことぢやよ。２０世紀の二つの世界大戦は国家経営資源争奪戦争であつたが、２

１世紀の世界大戦は論理層の国家経営資源である情報資源の争奪・通信技術資源の争奪戦争が上の階層で同時に起きてゐるつてえわけなのぢやな。
熊公：すると、ご隠居、これあ、コンビニ戦争つてえわけで？
ご隠居：ああ、さうぢやな、熊公、お前さんもなかなかうまいことをいふねえ。うちの店子は学があり過ぎ。結局、文明間戦争つてえのはコンビニエンス戦争ぢやからなう。
ハ公：それぢや、ご隠居、おいらみたいな役立たずで、ちつともコンビニではない野郎は一体どうやつてこれから生きていつたらいいんでやせう。コンビニ好きのかかあに、また叱られるのは、勘弁願ひてえ。
ご隠居：なになに、そんなことは易しい道理ぢや。（後ろの書棚に並ぶ安部公房全集全３０巻の中から第２４巻を抜き出して、ハチ公に示して）ぢやあ、お前さん、この巻の最初に『箱男』つてえのがあるから、これをお読み。まあ、これ位絶望に徹すればお前さんの不安などどこかに飛んで行つて、ハッつあん、お前さん、いよいよ本当の安部公房フアンになるよ。
ハ公：いや、ご隠居、それをいふなら、本当の贋フアンといつてもらひてえなあ。
熊公：それぢやあ、おいらも一度は『箱男』を読んで『密会』。

（お後がよろしいやうで。）

附録２　　二階層戦争論を理解するための分類

日本のできる、選択肢としての戦争の分類は次の通り。

１。前提：近代の歴史的文脈で観ると、今の米中戦争は第三次世界大戦である。この第三次世界大戦は、次の性格を有する。

（１）２０世紀の精算
（２）情報戦争（謀略・調略戦争）
（３）インターネット戦争（仮想現実上の安全保障戦争）
（４）国家安全保障確立戦争（反グローバリズム戦争）
（５）金融戦争（反国際金融資本戦争）
（６）局地戦（物理的な実際の地域戦争）

従ひ、この世界戦争は、次の二階層からなつてゐる。

（１）仮想現実（インターネットワーク）
（２）現実現実（物理的世界ネットワーク）

２。敵か味方か：列強と枢軸国：日本は列強につくか枢軸国につくかの選択を迫られてゐる。
（１）列強：資本主義、民主主義
（２）枢軸国：共産主義、共産党独裁主義、全体主義、ファシズム

３。第三次世界大戦の局面
（１）経済・貿易戦争の局面（現下の米中戦争の表側）
（２）思想戦争の局面（共産主義と超越論の戦争）
（３）宗教戦争の局面（キリスト教とユダヤ教とイスラム教（以上一神教）と共産主義の戦争）
（４）文化戦争の局面：国体総合戦力戦争：国体品質戦争：総力戦である。イデオロギーといふ交通信号機の信号を日本人ひとりひとりが見分け嗅ぎ分けて、信用しないこと。

４。地域戦争
４.１　アジア地域戦争
（１）第二次大東亜戦争：朝鮮半島抜きの第二次大東亜戦争＝安倍首相のダイヤモンドの三角形戦略（インド・太平洋戦略）
（２）経済戦争（日本としては対中国共産党への金の流れを断つための戦争：貨幣戦争（money war）と通貨戦争（currency war）の二つからなる）
（３）宗教戦争：一神教（唯一絶対神）か大地母神崇拝（多神）か（論理と信仰の戦争）
（５）文化戦争（真理探究のための対論から範疇の意図的な混同によつて逃げ続ける世界中の左翼・共産主義者を如何にリングに（土俵に）強制的に上げて、大虐殺を含めた其の所業を総括させるか？）

第二次大東亜戦争に次の二面あり。日本列島の東京に座標の交差点があると考へると：

（１）東と南方面の戦域は、第二次太平洋戦争（広義の第二次大東亜戦争）
（２）西と北方面の戦域は、第二次大東亜戦争（狭義の第二次大東亜戦争）但し、大陸での戦争は、今に至るまでの日韓併合の失敗の歴史に学んで、しない。

４.２　ヨーロッパ地域戦争
４.３　その他のユーラシア大陸地域戦争
４.４　中近東地域戦争
４.５　南北大陸地域戦争

５。地政学的戦争
（１）大陸戦争
（２）海洋戦争：島嶼戦争

６。日本国内戦争（マスメディとネットメディアの戦争：メディア戦争：media war）
（１）東京その他各都市での市街戦（街宣を含む敵味方の日々のプロパガンダ戦）
（２）東京の壁を如何に破壊するか（右翼・保守主義の立場）、如何に東京の壁を右翼・保守主義による破壊から防御するか（左翼・共産主義の立場）：ベルリンの壁は崩壊したが（１９８９年）、極東には東京の壁が残つてゐる。これをいつまでに、どのやうに崩壊させるか？方法論と方法を考へること。東京の壁が崩壊すると同時に、ソウルの壁、平壌の壁、北京の壁も崩壊する。この順序で大韓民国の消滅、朝鮮民主主義人民共和国の消滅、中華人民共和国の消滅が起きる。さうなれば、「戦後」誤訳偽装偽善国家日本も同時

に消滅する。日本にも大混乱が起きる。さあ、素晴らしきLGBT! Let's Go Bombing Today!

附録３　　２１世紀の多領域統合理論

ダウンロードはhttps://docdro.id/4vhsxMu

2019/04/29
eiya iwata

２１世紀の多領域統合理論

言語原理（ロゴス）：自己再帰性［私は私である。］(v2)

	現実現実				インターネット（仮想現実）	
	文化	経済	政治	宗教	ネット・モナド論	ネット・ヘゲモニー論
自己再帰性の全面肯定か全面否定か	自己再帰性の復活と全面肯定	自己再帰性の復活と全面肯定	自己再帰性の復活と全面肯定	自己再帰性の復活と全面肯定	モナド自体の自己再帰性（モナド自体の等質性・等価性）の全面肯定理論	自己再帰性の全面否定理論（一神教のトポロジーである）；GAFA
世界的社会現象	自国・自民族の伝統への回帰	MMT（Modern Monetary Theory）	トランプの登場（Globalismと共産主義の衰退）	一神教（言語自己再帰性の全面否定理論）の衰退	モナド部族（tribe：トライブ）・ネットワーク・トポロジーの形成	一神教（言語自己再帰性の全面否定理論）の衰退；GAFA
自己再帰理論	三島由紀夫の「文化防衛論」の再帰性と自主性と全体性のこと。安部公房の言語機能論。	貨幣自己再帰理論	自国本位（Nationalism）：自国再帰理論	大地母神崇拝（言語自己再帰性の全面肯定）の復活：言語自己再帰性絶対肯定理論	世界は差異である（認識論）と価値は等価で遍在する（汎神論的存在論）：超越論である。	一神教のトポロジーに生きる人種は浮遊状態（虚無主義：ニヒリズム）が漫然する。今のグローバリズムは此の共産主義の蔓延に他ならない。道徳の頽廃。解決策は文化のカラム（列）に戻る事。
					超越論/汎神論的存在論	共産主義

【結論】
要するに、どの領域にあつても、私は私である、と言へば良いのである。時代は顕著に、共産主義から超越論に存在の十字路を大きく曲つた。果たして「カーブの向う」に何があるものか？

附録４　　共産主義の致命的欠陥

「共産主義（マルクス主義）の特徴は、その経済体制のしからしむるところ（売買行為ー相場ーの否定）が原因で、そのなすことは、私の東ドイツ滞在見聞記（マルコポーロの向かふを張って、以後「西方共産主義見聞録」と呼びたい）の書き溜めたメモの一部を此処で引用するとすれば、売買行為（相場）の否定といふことから、共産主義とは、共産党による、

（１）外国の諸物の窃盗と［共産党と党に関係する者は皆運転手も含めスパイである］
（２）闇市場の追認と［従ひ、共産党は此の市場を管理（コントロール）できない］
（３）それまでの先人の蓄財した遺産（文化的精神遺産も含む）の切り売りの［歴史の捏造もこれに含まれる］

これら三つしかないのだ。」
（『Mole Hole Letter（１９）朝日新聞の労組副委員長（３６歳）の自殺は何を意味するか』もぐら通信第１０３号）

（１）は二つの階層で地球天下周知の通り。（３）には歴史の捏造のほかに、あれこれの無償化（教育の無償化その他）が含まれる。無制限（クルクルパー）の無償化と一緒に全体主義ファシズムがやつて来る。そして、といふわけで、（３）は（１）と（２）に繋がる。タダほど高いものはない。無償であるといふことは、国家権力の、あなたの私生活への無断の侵入に同意するといふことなのです。あなたが、或る日仕事から帰宅すると、ヴェランダから共産党支配の国旗が垂れ下がつてゐる。あなたにプライヴァシーや人権などは全く、ない。権利がないが共産党の絶対命令による義務だけはある。これがマルクス主義の実現した共産主義社会です。そして、これは私が東ドイツで経験した実際の経験です。（１）は国内の「人民」からの収奪を含むので、「国内外の諸物の窃盗」といふ方が良いかもしれない。さうすると益々（１）は（３）に近づき、（２）の闇市場の放任を許さざるを得ない。これが果たして国家であらうか？これに人間が個人の名前で耐えることのできる限界が７０年である。しかし、７０年といふ年月は、その個人の人生の時間のほとんど全てだ。

私の年来の観察によれば、これらすべてのことは、ただただ相場の否定といふ、時代地域を問はぬ人間の経済行為の要にあるものの否定によつて起きるのである。相場をマーケットなどと読み替へて、あなたの頭の中で翻訳すると、あなたの日本人としての理解が鈍ります。ここは相場といふ日本語の語感のままに素直に理解して貰ひたい。日本語はそれ位に大切です。さうであれば、どの国どの民族の言葉も自国民その民族にとつて致命的に大切である。それを弁へた上で相場をmarketと呼ぶのであれば、話はまた別のことになります。

欧米白人種キリスト教徒が世界の貨幣史を書くといつも最初に出てくる太平洋のヤップ島の石の大きな通貨（石貨）の写真をみて分かることは、太平洋の島々の間に相場があつたといふことです。この写真を見て分かることは、経済的な意思疎通（コミュニケーション）ー時間の中での等価交換ーは、価値の流通であつて、通貨といふ物体や素材の流通ではないといふことです。大きな石の通貨には携帯性がない。それに、何しろ石貨を舟で運搬途中に嵐や事故で海底に沈んでも、通貨の発注者の其れが所有であることは周知であり公認であつて、発注者はこの海底に沈んでしまつた通貨で支払ひができた。今の私たちがクレジットカードで支払ひをするのと何ら変はらない。即ち、ヤップ島やその他の太平洋の島々の人たちは、creditといふ言葉は知らないが、この言葉の持つ同じ信用といふ概念を知つてゐる、そしてこれに相当する現地の言葉を持つてゐるといふことです。ここから先は貨幣論になるので、この話も惜しいが、稿を改めるので、此処で御仕舞ひ。各自御研究下さい。まあ、あなたのクレジットカードが海底に沈んだらどうなるか、あなたはどうするかを想像してみて下さい。ここに、ヤップ島の大きな石の通貨と、あなたの財布にあるクレジットカードの違ひがあるでせう。さうして、あなたは自分がこれら島嶼の島の一つに住む土人だと思つてみて下さい。私は時折そのやうな自分を想像して空想に耽ることがあります。土人といふ言葉は大事だ。さうすれば、あなたといふ日本列島の土人は現代に生きてゐて、一体何を得、何を失つた人間なのかを思ひ出す事ができるでせう。さて、本当に、これで話は御仕舞ひ。各自御研究下さい。

連載物・単発物次回以降予定一覧

（１）安部淺吉のエッセイ
（２）もぐら感覚２３：概念の古塔と問題下降
（３）存在の中での師、石川淳
（４）安部公房と成城高等学校（連載第８回）：成城高等学校の教授たち
（５）存在とは何か〜安部公房をより良く理解するために〜（連載第５回）：安部公房の汎神論的存在論
（６）安部公房文学サーカス論
（７）リルケの『形象詩集』を読む（連載第１５回）：『殉教の女たち』
（８）奉天の窓から日本の文化を眺める（６）：折り紙
（９）言葉の眼１２
（１０）安部公房の読者のための村上春樹論（下）
（１１）安部公房と寺山修司を論ずるための素描（４）
（１２）安部公房の作品論（作品別の論考）
（１３）安部公房のエッセイを読む（１）
（１４）安部公房の生け花論
（１５）奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
（１６）安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
（１７）安部公房の論理学〜冒頭共有と結末共有の論理について〜
（１８）バロックとは何か〜安部公房をより良くより深く理解するために〜
（１９）詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』〜安部公房の定立した問題とは何か〜＊
（２０）安部公房の詩を読む
（２１）「問題下降」論と新象徴主義哲学
（２２）安部公房の書簡を読む
（２３）安部公房の食卓
（２４）安部公房の存在の部屋とライプニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
（２５）安部公房の女性の読者のための超越論
（２６）安部公房全集未収録作品
（２７）安部公房と本居宣長の言語機能論
（２８）安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
（２９）安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
（３０）安部公房と古代の神々：伊弉冊伊弉諾の神と大国主命
（３１）安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
（３２）リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
（３３）言語の再帰性とは何か〜安部公房をよりよく理解するために〜
（３４）安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
（３５）安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
（３６）安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
（３７）『さまざまな父』論〜何故父は「さまざま」なのか〜
（３８）『箱男』論 II：『箱男』をtopologyで解読する
（３９）安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
（４０）語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエィター』
（４１）安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
（４２）安部公房の超越論
（４３）安部公房とバロック哲学
①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
②安部公房とライプニッツ：汎神論的存在論
③安部公房とジャック・デリダ：郵便的（postal）意思疎通と差異
④安部公房とジル・ドゥルーズ：襞といふ差異
⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
（４４）安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人（strangers in the night）
（４５）安部公房とバロック文学
（４６）安部公房の記号論：《 》〈 〉（ ）〔 〕「 」『 』「……」
（４７）安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（１）
（４８）安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（２）

（４９）『密会』論
（５０）安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
（５１）『方舟さくら丸』論
（５２）『カンガルー・ノート』論（済み）
（５３）『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
（５４）言語とは何かII（済み）
（５５）エピチャム語文法（初級篇）
（５６）エピチャム語文法（中級篇）
（５７）エピチャム語文法（上級篇）
（５８）二十一世紀のバロック論
（５９）安部公房全集全３０巻読み方ガイドブック
（６０）安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
（６１）安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
（６２）安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
（６３）安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論〜『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
（６４）詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
（６５）安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
（６６）『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
（６７）言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
（６８）言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
（６９）言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
（７０）Topologyで神道を読む（１）：祓詞と祝詞と結界のtopology
（７１）Topologyで神道を読む（２）：結び・畳み・包みのtopology

［シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観］
（７１）超越論と神道（１）：言語と言霊
（７２）超越論と神道（２）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
（７３）超越論と神道（３）：topologyと産霊（むすひ）または結び
（７４）超越論と神道（４）：ニュートラルと御祓ひ（をはらひ）
（７５）超越論と神道（５）：呪文と祓ひ・鎮魂
（７６）超越論と神道（６）：存在（ザイン）と御成り
（７７）超越論と神道（７）：案内人と審神者（さには）
（７８）超越論と神道（８）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
（７９）超越論と神道（９）：中臣神道の祓詞（はらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
（８０）三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
（８１）安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
（８２）『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
（８３）バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
（８４）安部公房とチョムスキー
（８５）三島由紀夫のドイツ文学講座
（８６）安部公房のドイツ文学講座
（８７）三島由紀夫のドイツ哲学講座
（８８）安部公房のドイツ哲学講座
（８９）火星人特派員日本見聞録
（９０）超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
（９１）「『使者』vs.『人間そっくり』」論

●荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む（１９）：解体現象学：これが本当の最終回です。この詩篇を飛ばしてゐました。荒巻さんの詩の論理は、安部公房に本当によく似てゐる。これでヨーロッパの哲学者たちの思想を理解して詩の中に詠み込んだ事を思ふと、そんなここまでの詩人はゐません。やはり私はバロック詩人（ご本人は、いや、マニエリスムだとおつしやるでせうが）だといひたくなるのです。連載できたことに感謝申し上げます。

●『周辺飛行』論（１７）：箱男 予告編そのII ―周辺飛行１４：今回もまた存在のペテン師安部公房に、我ら贋子羊は喜んで騙されませう。

●全自動ベビーカーのデッドヒート：第一回　ぼくらはスーパーマーケットを襲撃する：木石岳さんにご寄稿をお願ひしました。YouTubeでの語りを聞くと、絶望的なほどの（勿論これは褒め言葉）安部公房愛読者の姿を知る事が出来て、多分同じ愛読者のあなたも、しかし、衝撃を受けるでせう。中学校の校舎の中で箱男になつて１日を過ごし、下校時にも箱を被つたままといふのは。アサヒさん世界最強ではないかな。

●私の本棚：
（１）西村幸祐著『韓国のトリセツ』を読む：時局柄、また私のMole Hole Letter（２１）にも関係して実に明快なる内容と論旨でしたので、この新書をご紹介しました。（２）秋川久紫新詩集『フラグメント　奇貨から群夢まで』を読む：この詩人の詩集も現代の厳しさを示してゐる。詩人がどうやつて時代と戦ふかの好例であると思ひます。

●安部公房スタジオ・第５回スタジオ公演（二月一七日～二六日）ダム・ウェイター：作/ハロルド・ピンター、訳・演出/安部公房：『アサヒグラフ』昭和５３年３月１０日号：安部公房スタジオの内部の稽古場の写真です。感ずるものが多々ある筈。熟読熟視、玩味下さい。

●ルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（４７）：第２部 XXII：”おお、運命にもかかわらず、あちこちの公園の中に泡だつて溢れている、”：砂の女は確かにこの詩との関係で論じてみると、死体の女です。まあ、この気味の悪い世界を安部公房はよくもさうにではなく描いたものです。しかし、この女はあなたの隣にゐる。あるひは男の姿をして、あなたの隣にゐる。

●Mole Hole Letter（２１）：二階層戦争論～時代と世界のための処方箋～：Topologyと超越論から生まれた高天原製の純日本製の処方箋です。我らは、これで２１世紀を生き抜く事ができる筈です。もつとも核爆弾が落ちたら一巻の終りですが。今から核シェルターのご用意を怠りなく。いや、『方舟さくら丸』を頭上に掲げれば、核爆弾もあなたを避けるかも知れない。

●では、また、次号

差出人:
贋安部公房
〒182-0003東京都調布市若葉町「閉ざされた無限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告
１。『周辺飛行』論（１９）
２。安部公房の縄文紀元論（１）：一般論
３。私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
４。哲学の問題１０１（１１）：愛（Liebe：リーベ）
５。大久保房雄を読む（１）：文壇とは何であつたか
６。リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（４９）
７。サンチョ・パンサを求めて（３）：ドーナツの穴になつた話

【本誌の主な献呈送付先】

本誌の趣旨を広く各界にご理解いただくために、 安部公房縁りの方、有識者の方などに僭越ながら 本誌をお届けしました。ご高覧いただけるとありがたく存じます。（順不同）

近藤一弥様、池田龍雄様、中田耕治様、宮西忠正様（新潮社）、北川幹雄様、加藤弘一様、平野啓一郎様、巽孝之様、鳥羽耕史様、友田義行様、内藤由直様、番場寛様、田中裕之様、中野和典様、坂堅太様、ヤマザキマリ様、小島秀夫様、頭木弘樹様、 高旗浩志様、島田雅彦様、赤田康和様（朝日新聞社）、富田武子様（岩波書店）、待田晋哉様（読売新聞社）

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館 、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

１．もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
２．もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
３．もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
４．編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

